



2025年3月期 決算説明会資料

2025年 5月14日

喜びを創り喜びを提供する



<https://www.kotobukispirits.co.jp/>



目次

■ 2025年3月期 決算概要	P 1～25
■ 2026年3月期 業績予想	P 26～30
■ 今後の経営方針とセグメント別業績の概況	P 31～49
■ ESG関連情報	P 50～51
■ 株式の状況・株主還元	P 52～57
■ 参考情報	P 58～67
■ 熱狂的ファンづくりの取り組み事例	P 68～75



2025年3月期 決算概要

※本資料中の金額は、「百万円未満切捨て」で記載しております。

業績ハイライト 2025年3月期

2025年3月期 通期業績

売上高及び各段階利益ともに3期連続で過去最高更新

●人件費の増加及び原材料価格の高騰に加えて、新工場設置及び製造ラインの移設・改修に伴う初期段階の生産効率の低下などのコスト増加要因があった中、インバウンド売上高の伸長及び新規出店並びに価格改定効果などにより、売上高及び各段階利益ともに3期連続で過去最高を更新。

●インバウンド売上高(国際線ターミナル売上高)は、10,022百万円(前期比40.6%増)となり、初めて100億円を突破。

●出退店は、2024年4月にJR新宿駅改札内の新商業施設「イトルミネ」に同時に3店舗出店、同年10月には小樽洋菓子舗ルタオ運河プラザ店をオープンするなど、12店舗の新規出店と1店舗のブランド変更並びに10店舗の退店を実施。

業績サマリー

(百万円、%)	21年3月期	22年3月期	23年3月期	24年3月期	25年3月期
売上高 (対前期比)	23,204 (△48.6%)	32,191 (+38.7%)	50,155 (+55.8%)	64,035 (+27.7%)	72,349 (+13.0%)
営業利益(△損失) (対前期比)	△2,890 (－)	1,402 (－)	9,951 (+609.4%)	15,780 (+58.6%)	17,610 (+11.6%)
経常利益(△損失) (対前期比)	△322 (－)	2,921 (－)	10,295 (+252.4%)	15,867 (+54.1%)	17,686 (+11.5%)
当期純利益(△損失) ^(注1) (対前期比)	△570 (－)	1,915 (－)	7,018 (+266.4%)	10,831 (+54.3%)	12,122 (+11.9%)
売上高経常利益率(%)	△1.4	9.1	20.5	24.8	24.4
EPS (円) ^(注2)	△3.66	12.31	45.10	69.61	78.00
BPS (円) ^(注2)	124.31	130.83	170.43	226.38	259.67
ROE (%)	△2.8	9.7	29.9	35.1	32.2

(注1) 当期純利益(△損失)＝親会社株主に帰属する当期純利益(△損失) (他の資料箇所も同様)

(注2) 当社は2023年10月1日を効力発生日として普通株式1株につき5株の株式分割を実施しております。

EPS及びBPS数値につきましては、2021年3月期期首に株式分割が行われたと仮定し算出しています。

※「収益認識に関する会計基準」等を22/3期から適用しており、22/3期以降に係る数値は、当会計基準適用後の数値となっております。

トピックス①(インバウンド売上高)

2025年3月期のインバウンド売上高は、初めて100億円を突破！

【インバウンド売上高(国際線ターミナル売上高)※1】

(百万円)	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
2025年3月期	2,305	2,338	2,765	2,613	10,022
2024年3月期	1,519	1,606	1,966	2,033	7,126
2023年3月期	85	167	640	1,084	1,977



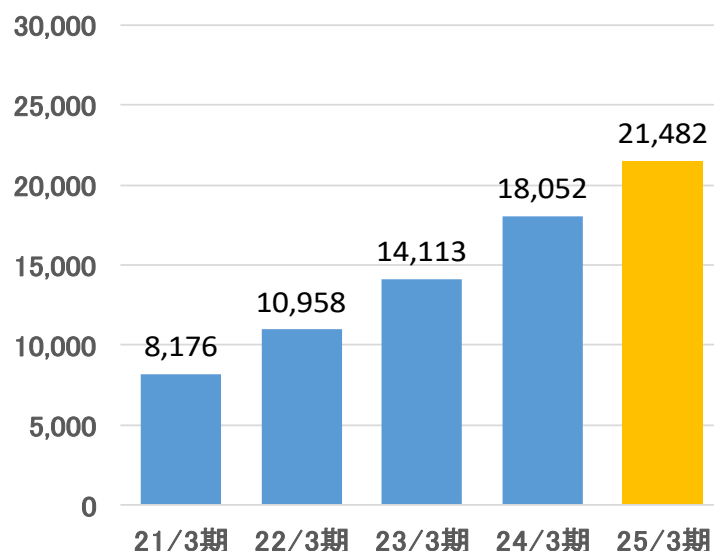
成田空港TAX FREE AKIHABARA内に展開中の「小樽洋菓子舗LeTAO」「PISTA&TOKYO」

※1 インバウンド売上高は、1Qより、国際線ターミナルのクリーンエリア外の売上高を含めた数値に変更。

トピックス②（ケイシイシイがグループの成長を牽引）

主カブランドである小樽洋菓子舗ルタオの更なる成長と2024年にオープンした新ブランド「カナリナ」を加えた首都圏ブランドの積極展開を推進

ケイシイシイ売上高



2024年4月17日OPEN「canarina(カナリナ)イトルミネ新宿店」

(百万円、%)	21年3月期	22年3月期	23年3月期	24年3月期	25年3月期	対前期	
						増減額	増減比
売上高	8,176	10,958	14,113	18,052	21,482	3,430	19.0
国内卸売	797	536	1,541	4,862	5,900	1,038	21.4
国内小売	3,296	5,130	8,069	8,482	10,840	2,358	27.8
通信販売	3,140	4,098	3,375	3,602	3,834	232	6.4
海外卸売	752	927	665	553	450	△ 103	△ 18.6
セグメント間内部売上	189	265	462	551	456	△ 95	△ 17.3

小樽洋菓子舗ルタオは、明治27年に完成した小樽市の指定歴史的建造物「旧小樽倉庫」の南側部分に2024年10月11日「ルタオ運河プラザ店」をオープンしました。カフェレストランコーナーは、2025年3月15日にスタート。



10月11日グランドオープン当日の様子
地元のお客様から観光客まで多くのお客様にご来店いただきました



本年3月15日に
カフェレストランコーナーがオープン

トピックス③ 新規出店情報

2024年4月17日 JR新宿駅改札内に「EAToLUMINE(イトルミネ)」がグランドオープン
当社グループで新ブランド2店舗、既存ブランド1店舗の合計3店舗を同時出店



(写真左上)
新ブランド「woofie(ウーフィ)イトルミネ新宿店」

(写真右上)
新ブランド「canarina(カナリナ)イトルミネ新宿店」

(写真左下)
「岡田謹製あんぱ屋イトルミネ新宿店」

前項のほかシュクレイがエキュート大宮に1店舗、そごう横浜店に2店舗、ケイシイシイが
ルミネ立川に1店舗、合計4店舗の新規出店



2024年4月26日 OPEN 「THE TAILOR(ザ・テイラー)そごう横浜店」



2024年4月26日 OPEN 「東京ミルクチーズ工場 そごう横浜店」



2024年7月9日 OPEN 「Butter Butler(バターバトラー)エキュート大宮店」



2024年9月18日 OPEN 「Now on Cheese ♪(ナウオンチーズ)ルミネ立川店」

販売子会社は、京都ポルタ 京小町店に新ブランド1店舗、福岡空港に1店舗、九十九島グループはJR博多駅に新ブランド「Ramely(ラメリー)」をオープン。※既存店舗のブランドチェンジ



2024年8月1日 OPEN
新ブランド「KNOU(ノウ)京都ポルタ 京小町店」



2024年4月12日 OPEN 「博多まっかな苺 福岡空港店」



2024年6月28日 OPEN 新ブランド「Ramely(ラメリー)」
※既存店舗のブランドチェンジ

くじゅうくしま

九十九島グループが新ブランド「KOKUNEKO(コクネコ)」をJR博多駅博多デイトスへ出店、販売子会社のせとうち寿が新ブランド「HARE MASU OKAYAMA」をJR岡山駅の商業施設さんすて岡山に出店しました。2025年3月期の当社グループ出退店舗数は、出店12店舗(うち5店舗は新ブランド)、退店10店舗となりました。



2024年12月14日 OPEN 「KOKUNEKO(コクネコ)博多デイトス店」



2025年3月20日 OPEN
「HARE MASU OKAYAMA さんすて岡山店」



トピックス④ シュクレイ 富士山静岡工場の設置

シュクレイが横浜工場、浜松工場に続いて3拠点目となる富士山静岡工場を設置しました。本工場は、全4ラインで構成され、2024年8月中旬より1ラインが稼働開始、同年11月には全4ラインが稼働を開始しました。

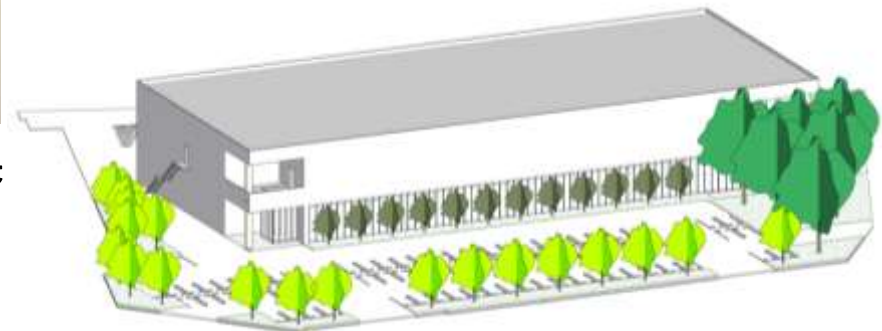


トピックス⑤ 株式会社ケーエムエフ設立

当社グループの寿製菓は、沖縄エリアでの事業成長の加速を目的として、株式会社宮古島の雪塩(旧:株式会社パラダイスプラン)とともに、沖縄県宮古島市に合弁会社を設立いたしました。株式会社宮古島の雪塩が建築する商業施設内に、株式会社ケーエムエフが工場を設置する計画となり、2027年の生産稼働開始に向けて準備を進めてまいります。



(写真左) 寿製菓 城内 (写真中) 宮古島の雪塩 西里社長
(写真右) 宮古島市 嘉数副市長
2024年7月4日 記者会見の様子



商業施設の概要(予定)

敷地面積 2700坪 建物面積 1600坪 工場面積 1000坪

2025年3月期 業績(対前期)

対前期比 売上高13.0%増、経常利益11.5%増

(百万円、%)	24年3月期		25年3月期		対前期	
	金額	売上比	金額	売上比	増減額	増減率
売上高	64,035	—	72,349	—	8,313	13.0
売上総利益	39,804	62.2	44,804	61.9	4,999	12.6
販売管理費	24,023	37.5	27,193	37.6	3,169	13.2
営業利益	15,780	24.6	17,610	24.3	1,830	11.6
経常利益	15,867	24.8	17,686	24.4	1,818	11.5
当期純利益	10,831	16.9	12,122	16.8	1,291	11.9
EPS(円)	69.61		78.00		8.39	12.1
ROE(%)	35.1		32.2		△ 2.9	△ 8.3

公表数字に対する達成率

売上面・利益面ともに期初予想を上回る

(百万円、%)	期初予想※		25年3月期		対期初予想	
	金額	売上比	金額	売上比	増減額	達成率
売上高	70,000	—	72,349	—	2,349	103.4
売上総利益	43,700	62.4	44,804	61.9	1,104	102.5
販売管理費	26,170	37.4	27,193	37.6	1,023	103.9
営業利益	17,530	25.0	17,610	24.3	80	100.5
経常利益	17,600	25.1	17,686	24.4	86	100.5
当期純利益	11,800	16.9	12,122	16.8	322	102.7

※ 期初予想は、2024年5月14日付公表数字

売上高(販売チャネル別)

国内小売は新規出店効果などにより増収
国内卸売はインバウンド需要の好調が続く

(百万円、%)	24年3月期		25年3月期		対前期	
	金額	売上比	金額	売上比	増減額	増減率
売上高	64,035	—	72,349	—	8,313	13.0
国内卸売	26,415	41.3	29,900	41.3	3,484	13.2
国内小売	30,181	47.1	34,940	48.3	4,758	15.8
通信販売	5,892	9.2	6,127	8.5	235	4.0
その他	8	0.0	10	0.0	1	—
国内計	62,498	97.6	70,979	98.1	8,481	13.6
海外卸売	886	1.4	759	1.1	△ 126	△ 14.3
海外小売	651	1.0	610	0.8	△ 40	△ 6.3
海外計	1,537	2.4	1,370	1.9	△ 167	△ 10.9

(注) 国内卸売は、主に小売店向け卸(駅、空港、SAなど)、代理店卸、OEMなど/ 国内小売は、主に直営店舗、催事など
 海外卸売は、海外FCに対する国内出荷売上＋ロイヤルティ/ 海外小売は、台湾子会社の売上/その他は損害保険代理業

補足(海外売上の内訳)

【海外売上高】 (百万円、%)	24年3月期 (通期)	25年3月期 (通期)	増減額	増減率
台湾(注1)	651	610	△ 41	△ 6.3
シンガポール	224	286	61	27.3
オーストラリア	262	258	△ 5	△ 1.8
その他	206	213	7	3.5
韓国(注2)	67	—	△ 65	—
中国(注2)	125	—	△ 125	—
合計	1,537	1,370	△ 168	△ 10.9

(注1) 台湾は連結子会社。他の地域はFC展開。台湾は現地売上、FCは国内出荷売上＋ロイヤルティ

(注2) 中国及び韓国は2024年3月にFC契約終了



売上原価・売上総利益

コスト上昇が続く中、価格改定効果などにより、売上総利益率は微減に留まる。

(百万円、%)	24年3月期		25年3月期		対前期	
	金額	売上比	金額	売上比	増減額	増減率
売上高	64,035	—	72,349	—	8,313	13.0
材料費	14,353	22.4	16,300	22.5	1,947	13.6
労務費	5,390	8.4	5,730	7.9	340	6.3
製造経費	2,755	4.3	3,353	4.6	598	21.7
製造原価計	22,499	35.1	25,385	35.1	2,885	12.8
その他	1,731	2.7	2,159	3.0	428	24.7
売上原価合計	24,231	37.8	27,545	38.1	3,313	13.7
売上総利益	39,804	62.2	44,804	61.9	4,999	12.6

販売管理費・営業利益

給与水準の引き上げなどで人件費が増加した一方で、増収効果により販売管理費比率は前年同期並みの水準となった

(百万円、%)	24年3月期(通期)		25年3月期(通期)		対前年同期	
	金額	売上比	金額	売上比	増減額	増減率
売上総利益	39,804	62.2	44,804	61.9	4,999	12.6
人件費	8,742	13.7	9,892	13.7	1,150	13.2
販売促進費	3,797	5.9	4,251	5.9	453	11.9
運賃	2,068	3.2	2,357	3.3	288	13.9
広告宣伝費	392	0.6	468	0.6	75	19.4
地代家賃及び 支払手数料 (注)	6,367	9.9	7,199	10.0	831	13.1
減価償却費	433	0.7	460	0.6	27	6.4
旅費交通費	483	0.8	532	0.7	49	10.2
その他	1,738	2.7	2,030	2.8	292	16.8
販売管理費	24,023	37.5	27,193	37.6	3,169	13.2
営業利益	15,780	24.6	17,610	24.3	1,830	11.6

(注) 今期より、地代家賃と支払手数料を合算して表示しております。

セグメント別の業績(対前期)

インバウンド需要の好調を背景にケイシイシイが大幅な増収増益

くじゅうくしま
九十九島グループは、工場の統廃合の影響などにより減益

(百万円、%)	売上高				営業利益		
	24年3月期(通期)	25年3月期(通期)	増減額	増減率	24年3月期(通期)	25年3月期(通期)	増減額
シュクレイ	26,455	30,095	3,639	13.8	5,843	6,314	470
ケイシイシイ	18,052	21,482	3,429	19.0	3,818	5,024	1,205
寿製菓・但馬寿	12,834	14,545	1,711	13.3	2,776	3,240	464
販売子会社	6,957	7,227	270	3.9	889	946	56
くじゅうくしま 九十九島グループ	6,382	6,363	△ 19	△ 0.3	783	388	△ 394
その他 (注)	743	692	△ 51	△ 6.9	87	55	△ 31
セグメント計	71,427	80,407	8,980	12.6	14,198	15,970	1,771
調整額	△ 7,391	△ 8,058	△ 667	9.0	1,582	1,640	58
合計	64,035	72,349	8,313	13.0	15,780	17,610	1,830

(注)「その他」には、損害保険代理事業、健康食品事業、海外(台湾)における菓子事業が含まれております。

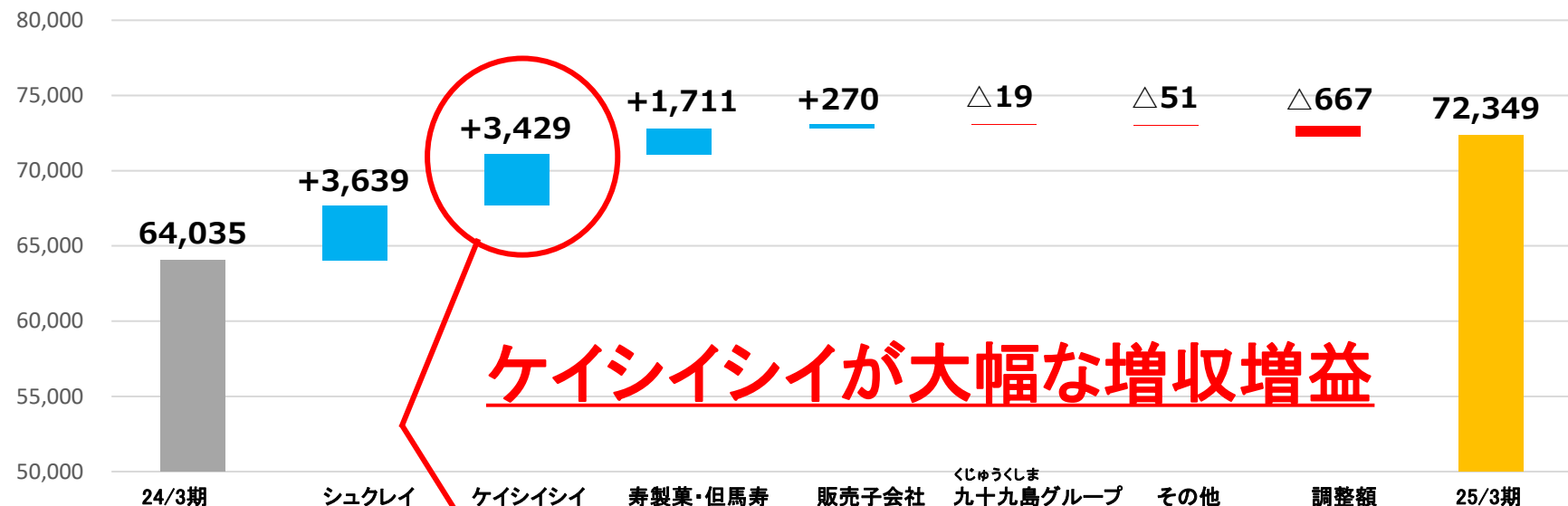
セグメント別業績の補足説明

シュクレイ	インバウンド対策では、注力している国際線ターミナルでの展開として、販売体制の強化や2024年7月に立ち上げました新ブランド「抹茶ちとせ」商品の拡販などに取り組みました。また、直営店や催事出店では、主力商品を軸に季節限定などの新商品を加え、ブランド訴求力の向上などに取り組みました。出退店では、2024年4月にJR新宿駅「イトルミネ」に新ブランド「ウーフィ」を、また、同月には、そごう横浜店に「東京ミルクチーズ工場」と「ザ・テイラー」を同時出店するなど、計4店の出店及び6店の退店を行いました。
ケイシイシイ	インバウンド対策に注力するとともに、「ルタオ」の更なるブランド価値の向上及び首都圏ブランドの育成に注力し、各店舗において主力商品対策及び新作限定スイーツの販売強化などに取り組みました。新規出店では、2024年5月にJR新宿駅「イトルミネ」に新ブランド「カナリナ」を出店、同年10月には明治27年に完成した小樽市の指定建造物「旧小樽倉庫」の南部分に「小樽洋菓子舗ルタオ 運河プラザ店」を出店するなど、計4店の出店を行いました。海外展開では、フランチャイズ形態で2024年8月に「ルタオ」ブランドで初めてアメリカに出店いたしました。
寿製菓・但馬寿	販路拡大に向け、沖縄市場での展開強化など主要代理店や販売子会社とのタイアップを密にし、主力商品対策や売場提案、新商品開発などの提案営業を推進いたしました。地元の山陰地区では、「因幡の白うさぎ」などの主力商品の販売強化などに取り組みました。
販売子会社	販売子会社は、交通拠点チャネルを重点に、主力商品及び新商品による売場面積の拡大などに注力いたしました。エリア別では、東海地区は、新ブランド「シェフズコーチン」による新商品「ゴールドentalト」の発売、関西地区は、新商品「神戸ショコラパフェサンド」の販売強化や2024年8月には京都駅に新ブランド「ノウ」の出店などに取り組みました。福岡地区は、主力ブランド「博多まっかな苺」の販売強化に注力し、2号店を2024年4月、福岡空港国内線に出店いたしました。中国地区では、2025年3月、JR岡山駅に新ブランド「ハレマス岡山」を出店いたしました。
くじゅうくしま 九十九島グループ	2024年9月に主力商品「九十九島せんぺい」初の姉妹品「九十九島せんぺいフィナンシェ」を発売するなど、各ブランドにおいて新商品の発売や積極的な催事出店によりブランド認知度の向上に取り組みました。出店では、2024年6月、JR博多駅に新ブランド「ラメリー」を出店（既存店舗のブランド変更）、また、同年12月には、JR博多駅に新ブランド「コクネコ」を出店いたしました。退店では、2025年1月にアイボリッシュらぽーと海老名店及び立川店を退店いたしました。

売上高／営業利益増減分析(対前期)

(売上高)

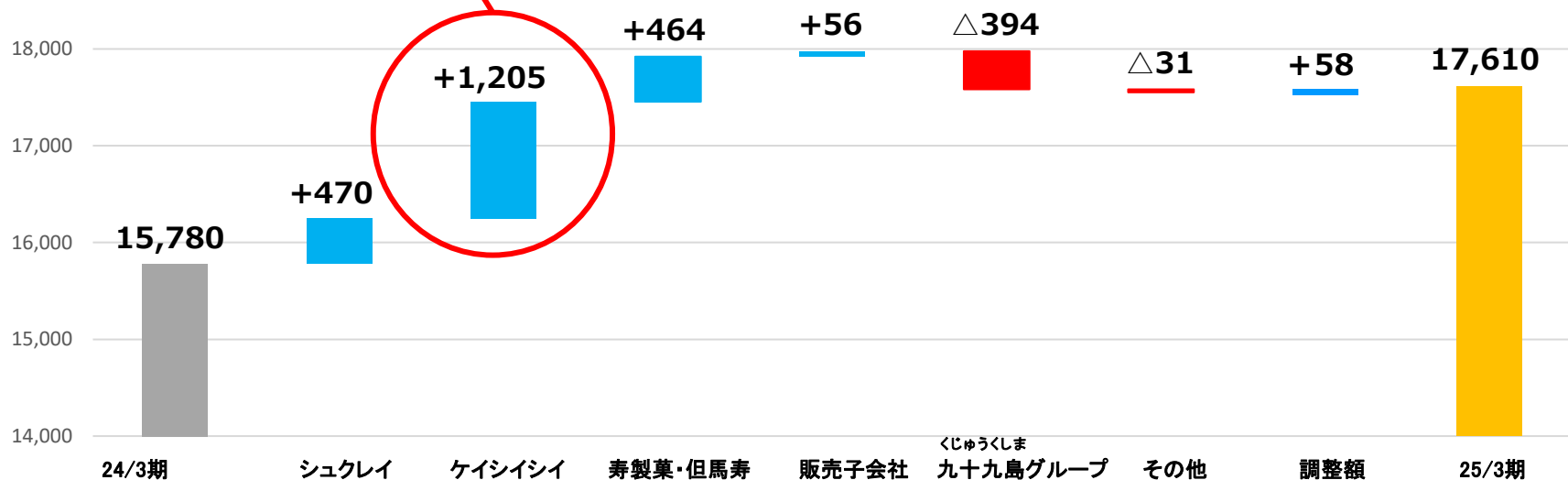
(単位：百万円)



ケイシイシイが大幅な増収増益

(営業利益)

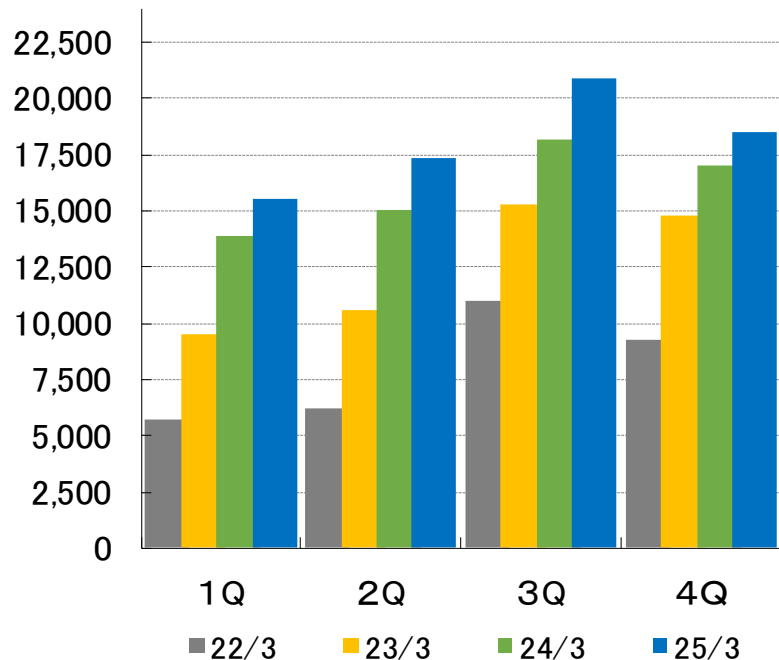
(単位：百万円)



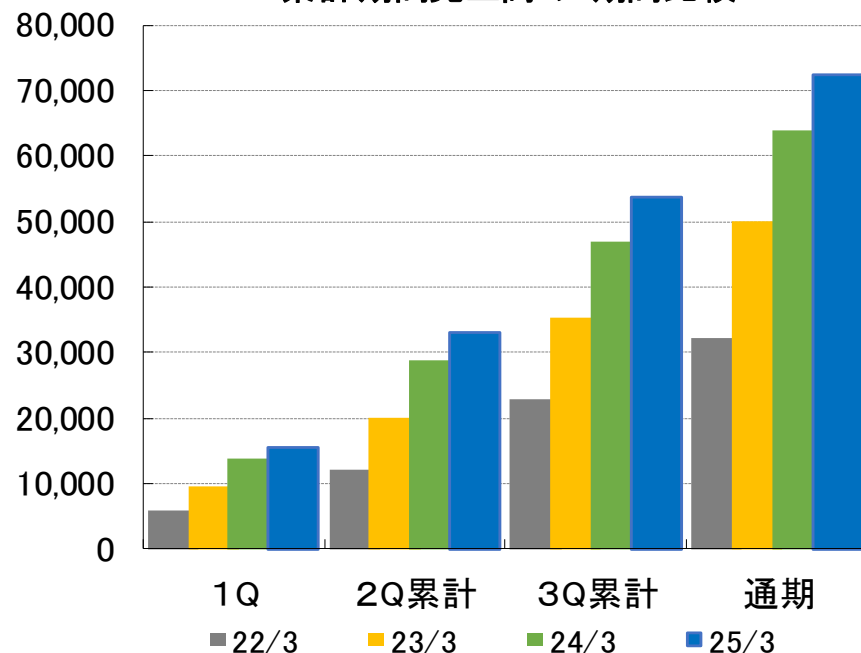
四半期業績の推移(売上高)

16四半期連続で増収

(百万円) 会計期間売上高の4期間比較



(百万円) 累計期間売上高の4期間比較

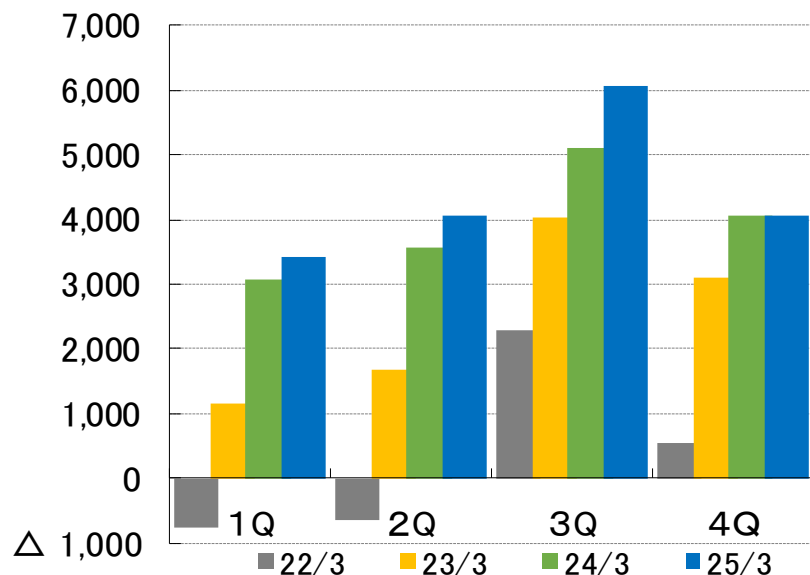


(百万円)	会計期間				累計期間			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q累計	3Q累計	通期
22/3	5,758	6,200	10,962	9,270	5,758	11,958	22,921	32,191
23/3	9,515	10,584	15,270	14,785	9,515	20,099	35,370	50,155
24/3	13,853	15,037	18,144	16,999	13,853	28,891	47,036	64,035
25/3	15,526	17,379	20,901	18,541	15,526	32,906	53,807	72,349
対前年	112.1%	115.6%	115.2%	109.1%	112.1%	113.9%	114.4%	113.0%

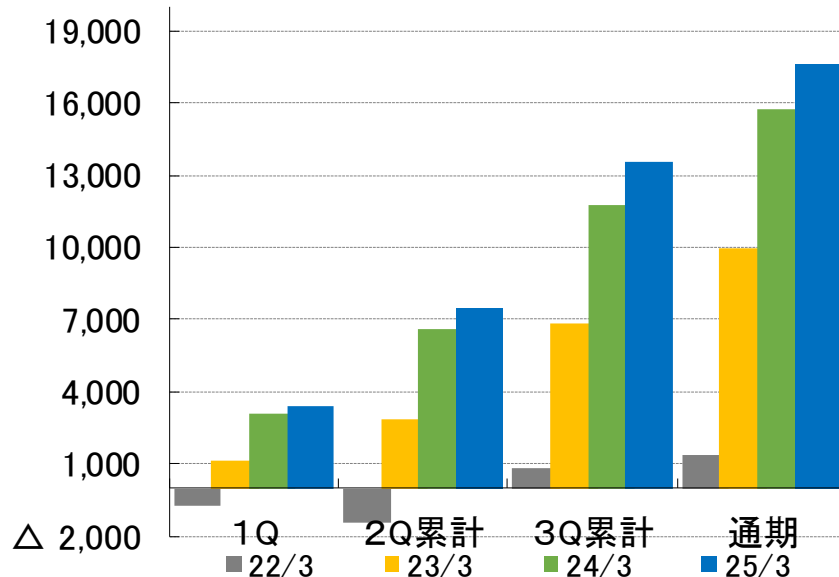
四半期業績の推移(営業利益)

14四半期連続で増益

(百万円) 会計期間営業利益の4期間比較



(百万円) 累計期間営業利益の4期間比較



(百万円)	会計期間				累計期間			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q累計	3Q累計	通期
22/3	△ 759	△ 658	2,278	542	△ 759	△ 1,418	860	1,402
23/3	1,150	1,679	4,026	3,095	1,150	2,830	6,856	9,951
24/3	3,058	3,563	5,111	4,046	3,058	6,622	11,734	15,780
25/3	3,428	4,048	6,069	4,065	3,428	7,476	13,545	17,610
対前年	112.1%	113.6%	118.7%	100.5%	112.1%	112.9%	115.4%	111.6%

貸借対照表

資産の増加は、主に現預金及び有形固定資産の増加によるもの

(百万円、%)	23年3月期(通期)		24年3月期(通期)		25年3月期(通期)		対前期	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
流動資産	25,740	69.7	34,408	74.0	37,649	72.4	3,241	9.4
固定資産	11,212	30.3	12,102	26.0	14,331	27.6	2,228	18.4
資産合計	36,953	100.0	46,510	100.0	51,980	100.0	5,469	11.8
流動負債	8,095	21.9	8,824	19.0	9,735	18.7	911	10.3
固定負債	2,340	6.3	2,462	5.3	2,158	4.2	△ 303	△ 12.3
負債合計	10,435	28.2	11,287	24.3	11,894	22.9	607	5.4
純資産	26,517	71.8	35,223	75.7	40,085	77.1	4,862	13.8
負債純資産合計	36,953	100.0	46,510	100.0	51,980	100.0	5,469	11.8
BPS(円)(注)	170.43		226.38		259.67		33.29	14.7
設備投資額	572		1,926		3,357		1,430	74.3
減価償却費	1,137		1,164		1,462		297	25.6

(注) 当社は2023年10月1日を効力発生日として普通株式1株につき5株の株式分割を実施しております。

BPS数値につきましては、2023年3月期の期首に株式分割が行われたと仮定して算出しています。

キャッシュ・フロー計算書

財務活動によるキャッシュフローは、配当金の支払い及び自社株式の取得などにより資金使用が大幅に増加

(百万円、%)	23年3月期	24年3月期	25年3月期	対前期	
	通期	通期	通期	増減額	増減率
営業活動CF	9,085	10,845	13,204	2,359	21.8
投資活動CF	△ 1,615	△ 2,004	△ 3,438	△ 1,434	71.5
フリーCF	7,469	8,840	9,766	926	10.5
財務活動CF	△ 1,223	△ 2,322	△ 7,372	△ 5,050	217.4
cashに係る換算差額	3	9	△ 5	△ 14	—
cash増減	6,249	6,527	2,388	△ 4,139	△ 63.4
cash期首	9,912	16,162	22,689	6,527	40.4
連結範囲の変更に伴う増減額	—	—	3	3	—
cash期末	16,162	22,689	25,081	2,391	10.5



2026年3月期 業績予想

2026年3月期 業績予想の補足説明

●事業環境見通し

今後の事業環境は、継続した物価上昇により消費者の節約志向の高まりが懸念されるなど、先行き不透明感が増すものと見込まれる。そのような中で、当社グループは、引き続き「プレミアムギフトスイーツ」の創造と育成に注力し、主力商品対策及び新商品開発の推進、インバウンド対策、好立地に拘った出店展開などの施策遂行により、増収・増益を目指していく。

●報告セグメントの変更

2025年4月1日付の組織再編(会社分割)により、「シュクレイ」と「九十九島グループ」を統合し、セグメント名称を「シュクレイグループ」に変更。前連結会計年度のセグメント情報においては、変更後の区分方法により作成。また、「寿製菓・但馬寿」のセグメント名称を「寿製菓グループ」に変更。

●出退店等

前期の出退店等(国内)は、12店舗の出店と10店舗の退店。26/3期の期初計画は、6店舗の出店、2店舗のリニューアル、2店舗の退店を予定。

●設備投資等

設備投資計画は25億円。／九十九島グループの佐世保日宇工場が本年5月閉鎖予定。(建物を解体後に売却を予定。)

2026年3月期 業績予想(対前期)

売上高前期比10.1%増、営業利益同11.6%増

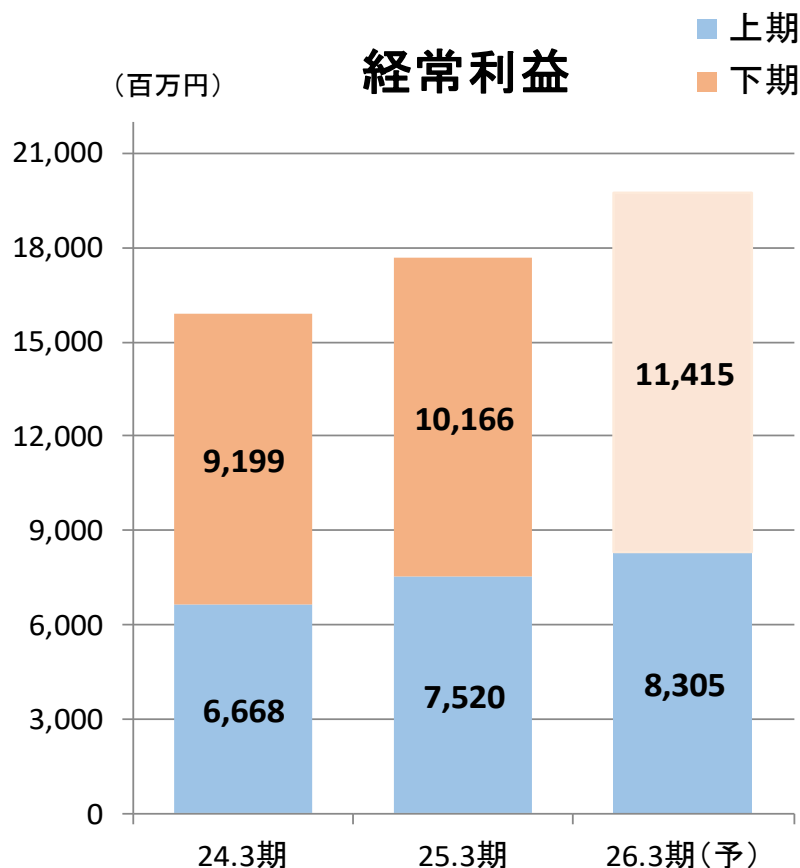
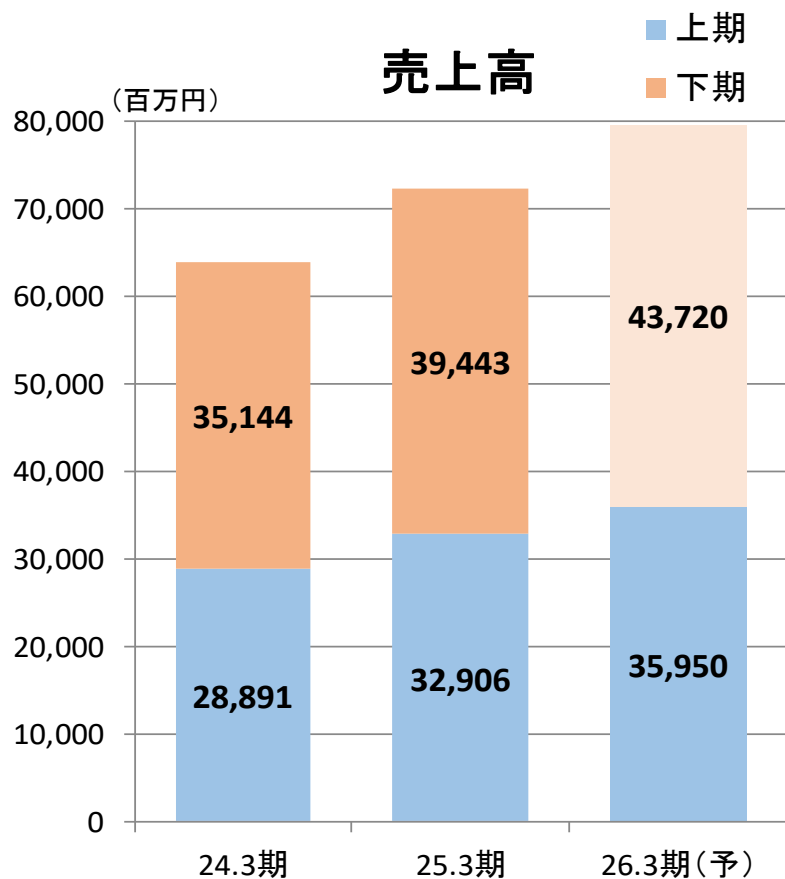
(百万円、%)	25年3月期		26年3月期		対前期	
	金額	売上比	金額	売上比	増減額	増減率
売上高	72,349	—	79,670	—	7,320	10.1
売上総利益	44,804	61.9	49,600	62.3	4,795	10.7
販売管理費	27,193	37.6	29,950	37.6	2,756	10.1
営業利益	17,610	24.3	19,650	24.7	2,039	11.6
経常利益	17,686	24.4	19,720	24.8	2,033	11.5
当期純利益	12,122	16.8	13,400	16.8	1,277	10.5
EPS(円)	78.00		86.81		8.81	—
1株当たり配当金(円)	32.00		35.00		3.0	—
設備投資	3,357		2,500		△ 857	△ 25.5
減価償却費	1,462		1,600		138	9.4

2026年3月期 業績予想(セグメント別)

(百万円、%)	売上高				営業利益		
	25/3期	26/3期予	増減額	増減率	25/3期	26/3期予	増減額
シュクレイグループ(注)	34,698	38,110	3,411	9.8	6,703	7,755	1,051
ケイシイシイ	21,482	23,800	2,317	10.8	5,024	5,620	595
寿製菓グループ(注)	14,545	15,730	1,184	8.1	3,240	3,497	256
販売子会社	7,227	7,800	572	7.9	946	1,040	93
その他	692	690	△ 2	△ 0.3	55	48	△ 7
セグメント計	78,647	86,130	7,482	9.5	15,970	17,960	1,989
調整額	△ 6,297	△ 6,460	△ 162	2.6	1,640	1,690	49
合計	72,349	79,670	7,320	10.1	17,610	19,650	2,039

(注)2025年4月1日付の組織再編(会社分割)により、「シュクレイ」と「^{くじゅうくしま}九十九島グループ」を統合し、セグメント名称を「シュクレイグループ」に変更。前連結会計年度のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成。また「寿製菓・但馬寿」のセグメント名称を「寿製菓グループ」に変更。

2026年3月期 業績予想(上期・下期比較)



(百万円、%)	売上高						経常利益					
	24/3期	構成比	25/3期	構成比	26/3期(予)	構成比	24/3期	構成比	25/3期	構成比	26/3期(予)	構成比
上期	28,891	45.1%	32,906	45.5%	35,950	45.1%	6,668	42.0%	7,520	42.5%	8,305	42.1%
下期	35,144	54.9%	39,443	54.5%	43,720	54.9%	9,199	58.0%	10,166	57.5%	11,415	57.9%
通期	64,035	100.0%	72,349	100.0%	79,670	100.0%	15,867	100.0%	17,686	100.0%	19,720	100.0%



今後の経営方針とセグメント別業績の概況

経営理念・基本ポリシー

経営理念

喜びを創り喜びを提供する

当社グループの経営理念は、創業者であります故河越庄市をはじめ、諸先輩方が幾多の試練を乗り越えてこられた中、生まれました。利潤の追求のみが企業の目的ではなく、会社が未来永劫発展し続けるためには、常に「人様に喜んでいただく」ことを最優先に考え、お客様に喜んでいただける商品を創り、お客様に喜ばれるサービスを提供し続け、地域社会への貢献、共存・共栄こそが、会社の存在意義であり、当社グループに与えられた使命であります。

基本ポリシー

今日一人、熱狂的なファンを創る

当社グループの全従業員は、経営理念の具現化に向け、ひとつのお菓子、ひとりのお客様への接客で、一生お付き合いができる熱狂的なファンを今日一人創ることに徹する「熱狂的ファン創り」を基本ポリシーとしております。

《経営理念手帳「こづち」について》

当社グループは、経営哲学(フィロソフィー)を明文化した経営理念手帳「こづち」を作成し、全従業員の経営理念浸透と企業倫理の徹底に努めております。

経営理念手帳「こづち」は、各職場単位で行う朝礼や研修、勉強会などで活用し、また、経営理念の実践の成果を全従業員が共有し、さらなる大きな成果を生み出していくことを目的に「こづち発表全国大会」を年1回開催しております。



2025年1月「こづち発表全国大会」を開催

ビジョン(目指すべき方向性)

全国各地のプレミアムギフトスイーツブランドを創造する

「お菓子の総合プロデューサー」

General Producer of the Sweets

当社グループは、「お菓子の総合プロデューサー」として、「高い価値の創造」をテーマに、美味しさと地域性を追求した「プレミアムギフトスイーツ」の創造と育成を推進し、地域社会への貢献・共存・共栄を図り、社会から信頼され必要とされる企業集団を目指してまいります。



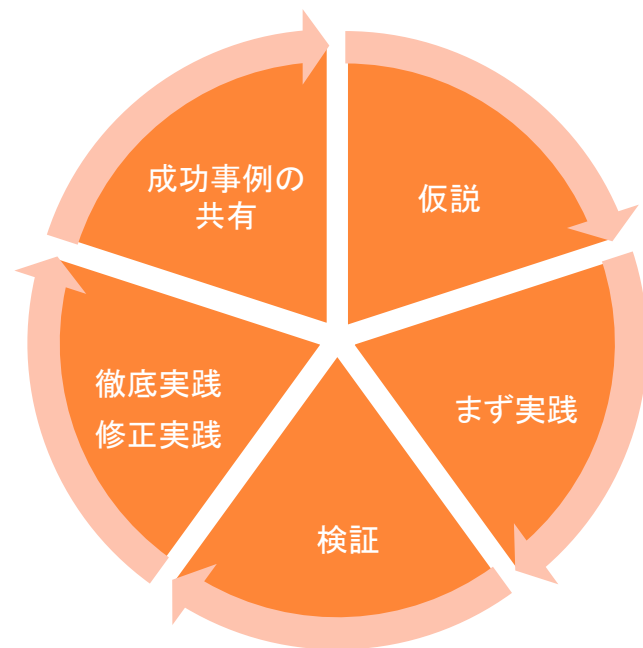
寿スピリッツグループ2025年経営スローガン

マッハで実践！ 実践！ 実践！

当社グループは、高いブランド価値の創造に向けて、全従業員が超現場力を発揮し、「寿スピリッツ流PDCAサイクル」をマッハで実践する。

寿スピリッツ流PDCAサイクル

素晴らしい実績をあげた優秀者や優秀チームが毎月開催する経営会議にて成功事例を発表し、グループの全従業員に共有します。現場では共有された成功事例を参考にして自ら新たな対策の仮説を考え、即実践します。実践したらすぐに結果を検証し、仮説が正しければ、徹底実践。修正が必要であれば、修正実践。その結果、新たな成功事例が創り出されるのです。当社内では「WSR成功サイクル」と呼び、超現場力の源泉として活用しています。



中長期の経営目標（Value Up Vision 2030）

●成長ストーリー

経営理念をベースとした

「全員参画による超現場主義経営」の更なる推進

当社グループは、経営理念を拠り所に、従業員一人ひとりが当事者意識をもって経営に参画する「全員参画による超現場主義経営」の徹底実践により人的資本経営を推進。活力ある魅力あふれる企業集団を創造し、中長期的な企業価値の向上を目指してまいります。



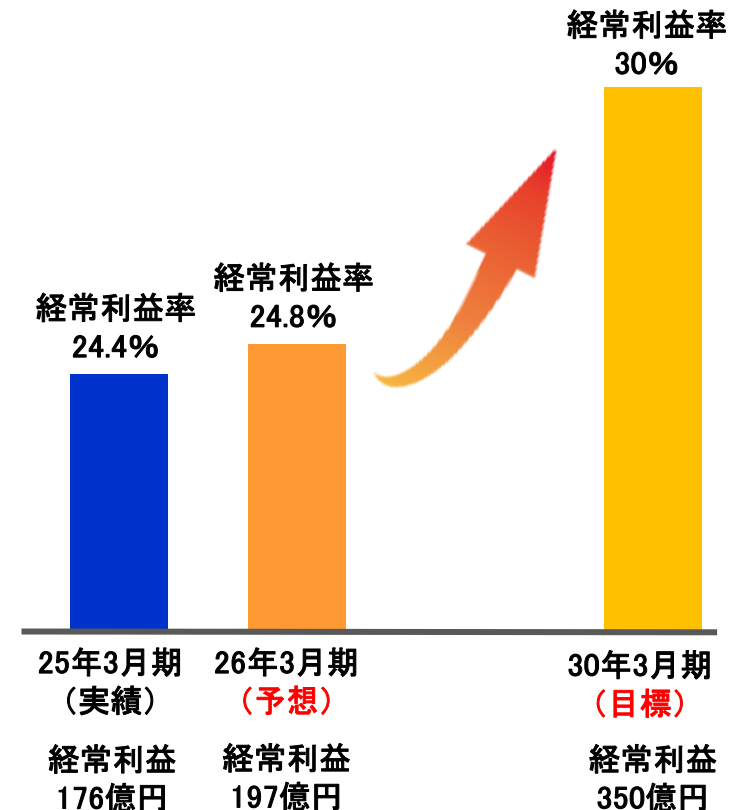
中長期の経営目標 (Value Up Vision 2030)

●重点対策

- ・商品力、売場力、販売力のValue Up
- ・インバウンド対策のValue Up
- ・人財力のValue Up

●目標指標

- ・ 経常利益率 30% (2030年3月期)
- ・ 経常利益 350億円 (2030年3月期)
- ・ 5カ年の平均売上成長率 10%
- ・ ROE30%以上

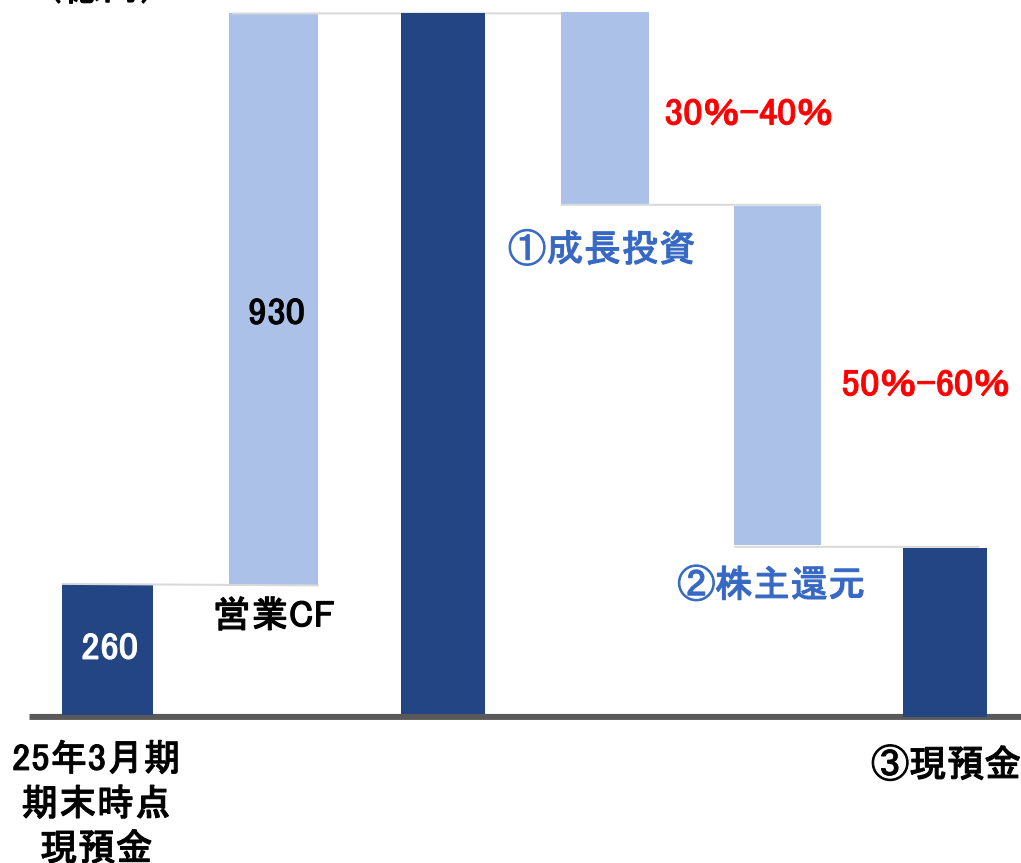


●キャッシュアロケーション方針

(26年3月期から30年3月期の5年間)

創出するキャッシュを更なる成長投資・株主還元投入到し、更なる収益性の向上により高ROE経営を推進。中長期的な企業価値の向上を目指してまいります。

(億円)



①成長投資

工場投資(既存工場の維持、更新含む)、出店投資やM&A等による新たな成長投資

②株主還元

総還元性向50%以上を意識し、利益成長に応じた増配と機動的な自己株式取得を実施

③現預金

売上の30%程度を目安に手元流動性を確保

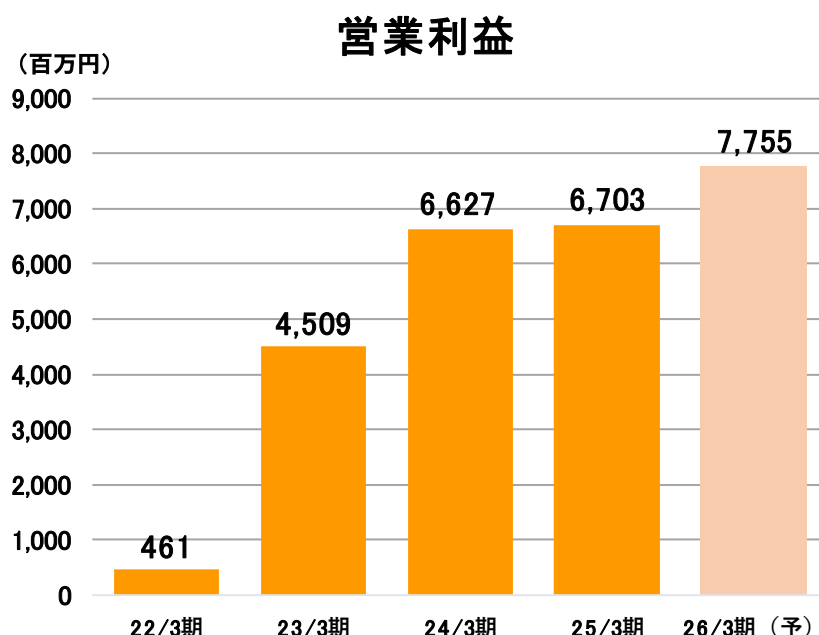
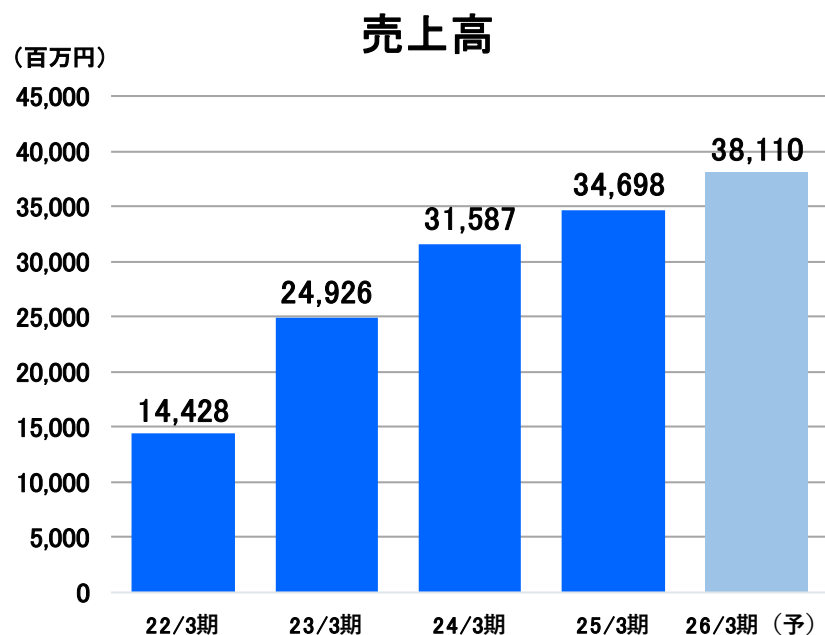
セグメント別概況



- シュクレイグループ
(シュクレイ/九十九島グループ)
- ケイシイシイ
- 寿製菓グループ
(寿製菓/但馬寿/ケーエムエフ)
- 販売子会社
- その他

《シュクレイグループ》

26/3期予想: 売上高 **38,110** 百万円 (前期比 **+9.8%**) 営業利益 **7,755** 百万円 (同 **+15.7%**)



(百万円, %)	22/3期	23/3期	24/3期	25/3期	対前期		26/3期(予)	対前期	
	金額	金額	金額	金額	増減額	増減率	金額	増減額	増減率
売上高	14,428	24,926	31,587	34,698	3,110	9.8	38,110	3,411	9.8
売上総利益	8,511	15,587	20,424	22,286	1,861	9.1	24,745	2,458	11.0
粗利率	59.0	62.5	64.7	64.2	△ 0.4	-	64.9	0.7	-
販売管理費	8,049	11,077	13,797	15,582	1,785	12.9	16,990	1,407	9.0
営業利益	461	4,509	6,627	6,703	76	1.1	7,755	1,051	15.7

(注) 2025年4月1日付の組織再編(会社分割)により、「シュクレイ」と「九十九島グループ」を統合し、セグメント名称を「シュクレイグループ」に変更。前連結会計年度のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成。

《シュクレイグループ》

九十九島グループとの一体化経営を推進。現場力の更なる強化により、ブランド価値の向上を図り、成長を加速する



フランス 果実を楽しむミルフィユ



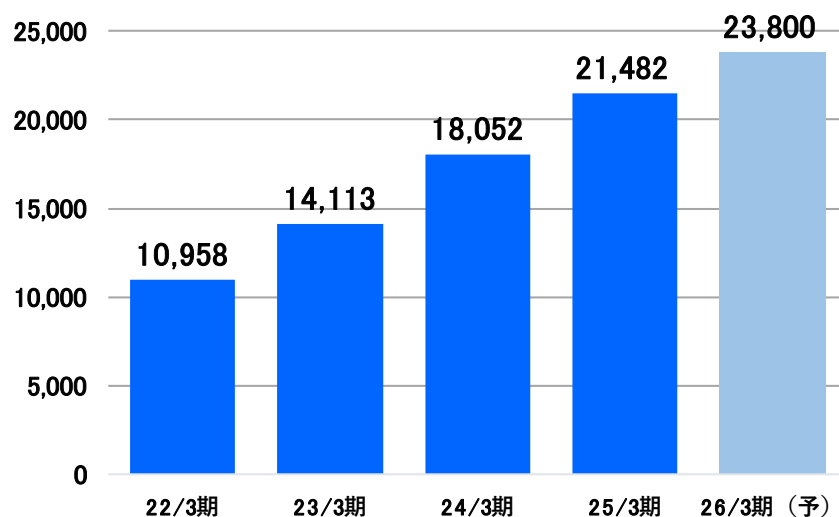
コクネコ チュイール

《ケイシイシイ》

26/3期予想:売上高 **23,800**百万円(前期比**+10.8%**)営業利益 **5,620**百万円(同**+11.9%**)

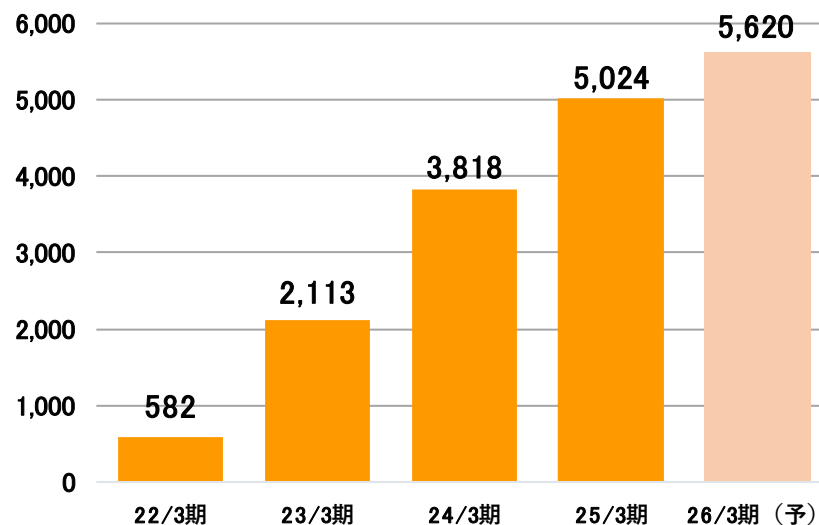
売上高

(百万円)



営業利益

(百万円)



(百万円,%)	22/3期	23/3期	24/3期	25/3期	対前期		26/3期(予)	対前期	
	金額	金額	金額	金額	増減額	増減率	金額	増減額	増減率
売上高	10,958	14,113	18,052	21,482	3,429	19.0	23,800	2,317	10.8
売上総利益	5,908	8,149	10,938	13,378	2,439	22.3	14,840	1,461	10.9
粗利率	53.9	57.7	60.6	62.3	1.7	—	62.4	0.1	—
販売管理費	5,325	6,035	7,120	8,354	1,234	17.3	9,220	865	10.4
営業利益	582	2,113	3,818	5,024	1,205	31.6	5,620	595	11.9

《ケイシイシイ》

小樽洋菓子舗LeTAOの更なるブランド価値の向上と、
「ピスタ&トーキョ」、「ナウオンチーズ♪」、「岡田謹製あんバター屋」
2024年にオープンした「カナリナ」を加えた首都圏ブランドの育成に注力



ルタオ運河プラザ店オープン記念限定商品
 カダンス ストロベリー

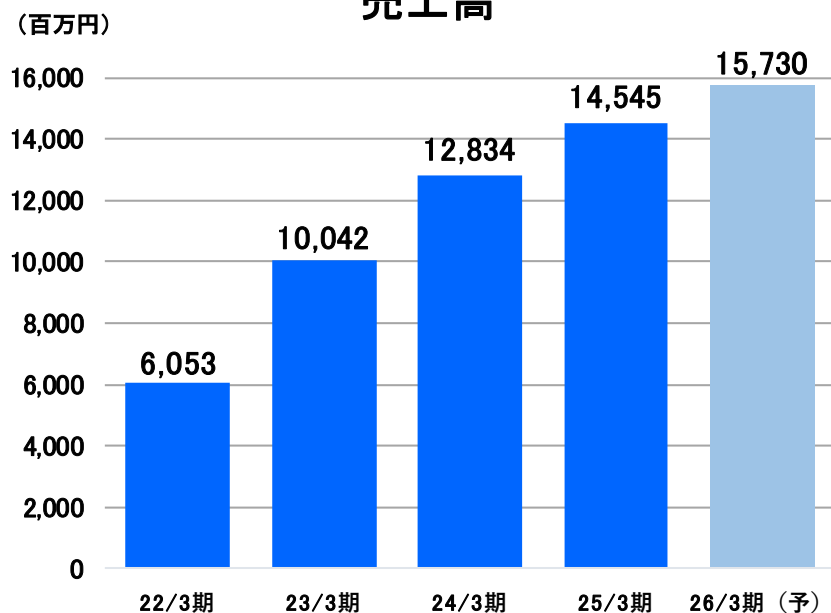


ナウオンチーズ♪チーズケーキナウ

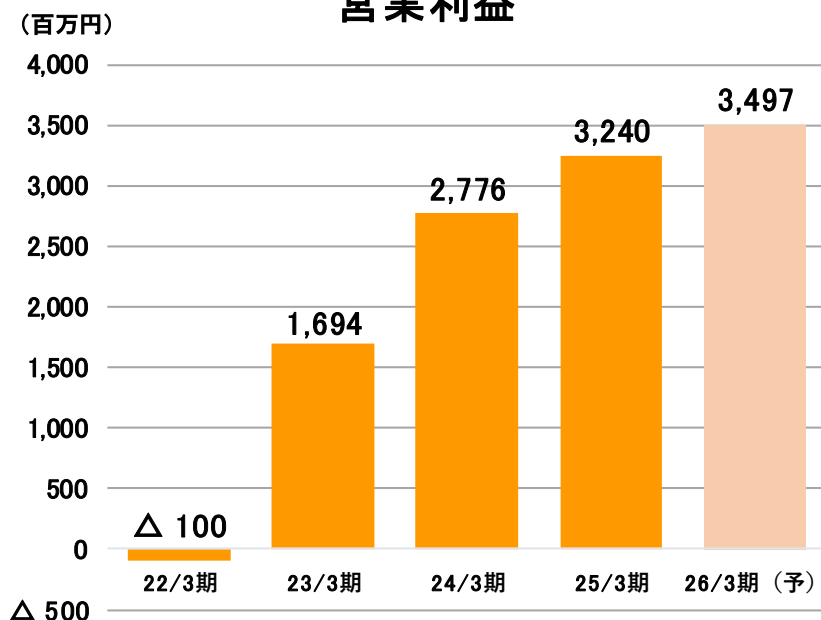
《寿製菓グループ》

26/3期予想:売上高 **15,730**百万円(前期比**+8.1%**)営業利益 **3,497**百万円(前期比**+7.9%**)

売上高



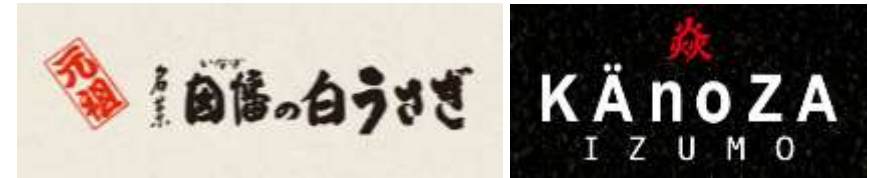
営業利益



(百万円,%)	22/3期	23/3期	24/3期	25/3期	対前期		26/3期(予)	対前期	
	金額	金額	金額	金額	増減額	増減率	金額	増減額	増減率
売上高	6,053	10,042	12,834	14,545	1,711	13.3	15,730	1,184	8.1
売上総利益	1,773	3,952	5,355	6,104	749	14.0	6,677	572	9.4
粗利率	29.3	39.4	41.7	42.0	0.2	-	42.4	0.5	-
販売管理費	1,873	2,258	2,578	2,863	285	11.1	3,180	316	11.0
営業利益	△ 100	1,694	2,776	3,240	464	16.7	3,497	256	7.9

(注)「寿製菓・但馬寿」のセグメント名称を「寿製菓グループ」に変更。

《寿製菓グループ》



主力商品の育成及び新商品開発の推進、代理店との連携強化により
更なる成長を目指す



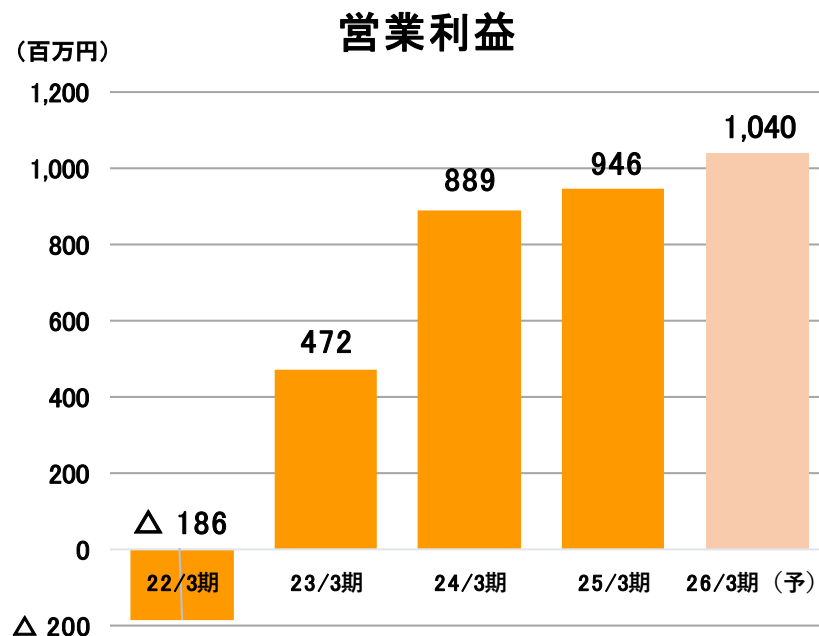
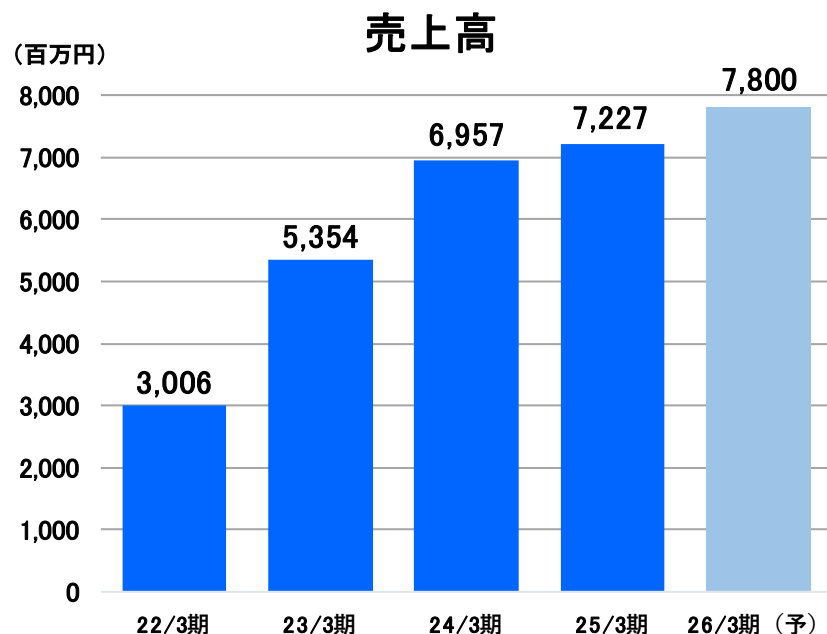
困幡の白うさぎ



KAnoZA 焼きチョコクッキー

《販売子会社》

26/3期予想:売上高 **7,800**百万円(前期比**+7.9%**)営業利益 **1,040**百万円(前期比**+9.9%**)



(百万円,%)	22/3期	23/3期	24/3期	25/3期	対前期		26/3期(予)	対前期	
	金額	金額	金額	金額	増減額	増減率	金額	増減額	増減率
売上高	3,006	5,354	6,957	7,227	270	3.9	7,800	572	7.9
売上総利益	1,097	2,012	2,637	2,796	159	6.1	3,020	223	8.0
粗利率	36.5	37.6	37.9	38.7	0.8	—	38.7	0.0	—
販売管理費	1,284	1,540	1,747	1,850	102	5.9	1,980	129	7.0
営業利益	△ 186	472	889	946	56	6.4	1,040	93	9.9

《販売子会社》

主要交通拠点チャネルを中心に新商品での新売場獲得、
主力商品での売場面積拡大に注力



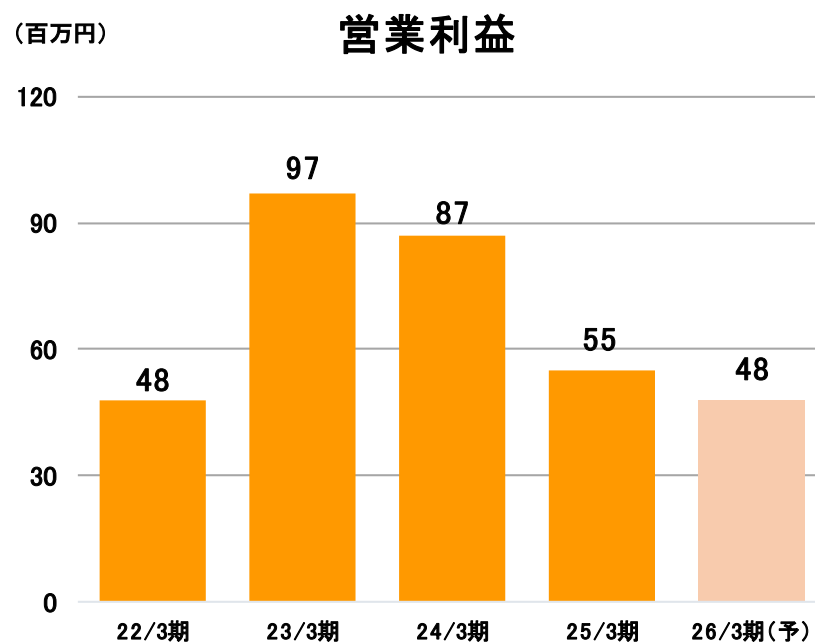
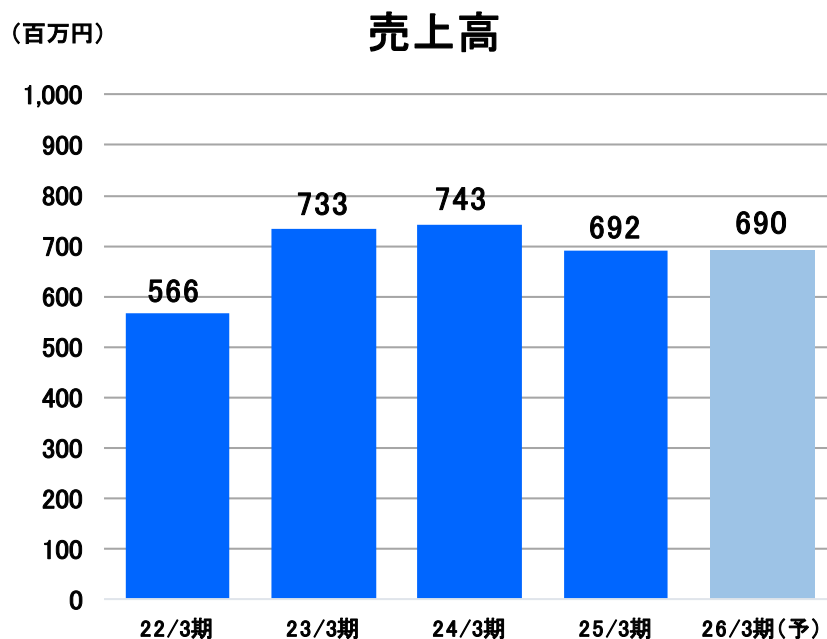
まっかな苺のメルティショコラ



HARE MASU OKAYAMA
シャインマスカットラングドシャ

《その他》 <損害保険代理業、健康食品事業、海外(台湾)菓子事業>

26/3期予想:売上高 **690**百万円(前期比 $\Delta 0.3\%$)営業利益 **48**百万円(同 $\Delta 13.6\%$)



(百万円,%)	22/3期	23/3期	24/3期	25/3期	対前期		26/3期(予)	対前期	
	金額	金額	金額	金額	増減額	増減率	金額	増減額	増減率
売上高	566	733	743	692	△ 51	△ 6.9	690	△ 2	△ 0.3
売上総利益	411	534	537	494	△ 42	△ 8.0	488	△ 6	△ 1.3
粗利率	72.5	72.8	72.2	71.4	△ 0.8	-	70.7	△ 0.7	-
販売管理費	362	437	449	438	△ 11	△ 2.5	440	1	0.3
営業利益	48	97	87	55	△ 31	△ 36.3	48	△ 7	△ 13.6

《その他》

台湾菓子事業



東京ミルクチーズ工場 台湾限定商品



ザ・メープルマニア 台湾限定商品

純藍

健康食品事業(純藍事業)



古来伝承素材「藍」を100%配合した健康茶『純藍茶』



ESG関連情報

ESG情報(マテリアリティの特定および統合報告書の発行)

当社は、当社グループが様々な事業活動を推進していくうえで、持続可能な社会実現への貢献と中長期的な企業価値の向上が重要な経営課題であるとの認識のもと、2024年6月にはマテリアリティ(重要課題)を特定し、サステナビリティにおける取り組みを推進してまいります。

また、同年11月には統合報告書を初めて発行いたしました。

統合報告書2024



寿スピリッツグループのマテリアリティ(重要課題)

- ① 持続可能な環境型社会への貢献
- ② 安心安全な製品の提供
- ③ 多様性を尊重した人財の採用と育成
- ④ 持続可能なサプライチェーンの構築
- ⑤ 地域社会との共存共栄
- ⑥ コーポレートガバナンスの強化

寿スピリッツグループ
サステナビリティサイト



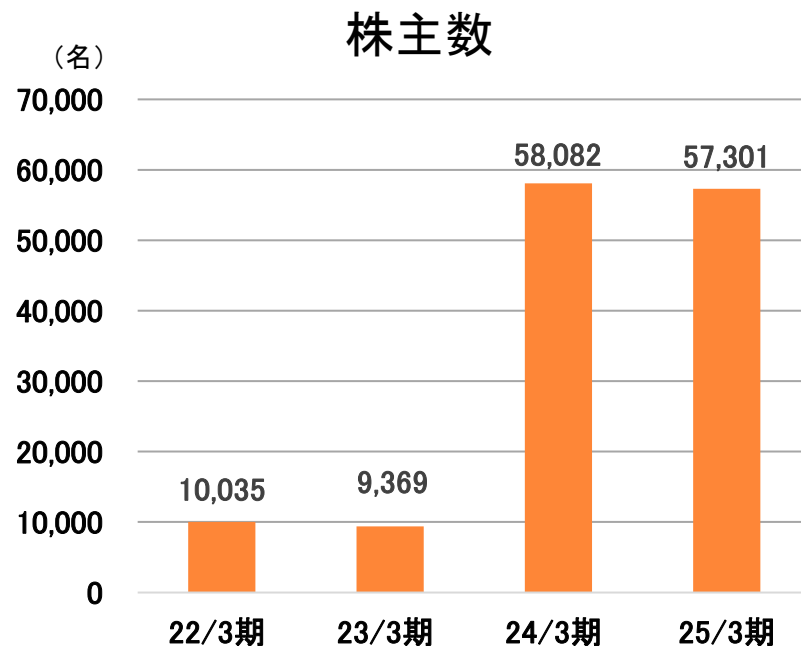


株式の状況・株主還元

株式の状況

(2025年3月31日現在)

- 発行可能株式総数 456,000,000株
- 発行済株式総数 155,658,402株 (注)
- 単元株式数 100株
- 株主数 57,301名 (前期末比 781名減)



(注) 当社は2024年7月24日付で、譲渡制限付株式報酬としての新株式を50,802株発行したため、発行済株式総数が増加しております。

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
エスカワゴエ株式会社	45,500,000	29.48
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	17,828,900	11.55
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	12,470,493	8.08
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	4,462,900	2.89
株式会社山陰合同銀行	3,657,300	2.37

(注) 持株比率は、自己株式1,295,797株を除く

株式の状況

●自己株式取得を実施(2024年12月9日開催の取締役会決議)

- (1) 取得対象株式の種類 当社普通株式
- (2) 取得した株式の総数 1,281,300 株※発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合 1.28%
- (3) 取得価額の総額 2,999百万円
- (4) 取得期間 2025 年1月 16 日～2025 年3月18 日(約定ベース)

●幹部従業員向け譲渡制限付株式報酬制度の導入を決議 (2025年5月13日開催の取締役会決議)

(導入目的等)対象従業員に、当社の企業価値の持続的な向上を図るインセンティブを与えるとともに、株主の皆様との一層の価値共有を進めることを目的とするもの。なお、対象社員への具体的な支給時期及び配分については、定時株主総会後に開催する取締役会において決定。

●2024年度「JPXプライム150指数」「JPX日経インデックス400」構成銘柄に選定

当社は、株式会社JPX総研が算出する2024年度の「JPXプライム150指数」と株式会社JPX総研及び株式会社日本経済新聞社が算出する「JPX日経インデックス400」の構成銘柄として選定されました。



JPX-NIKKEI 400



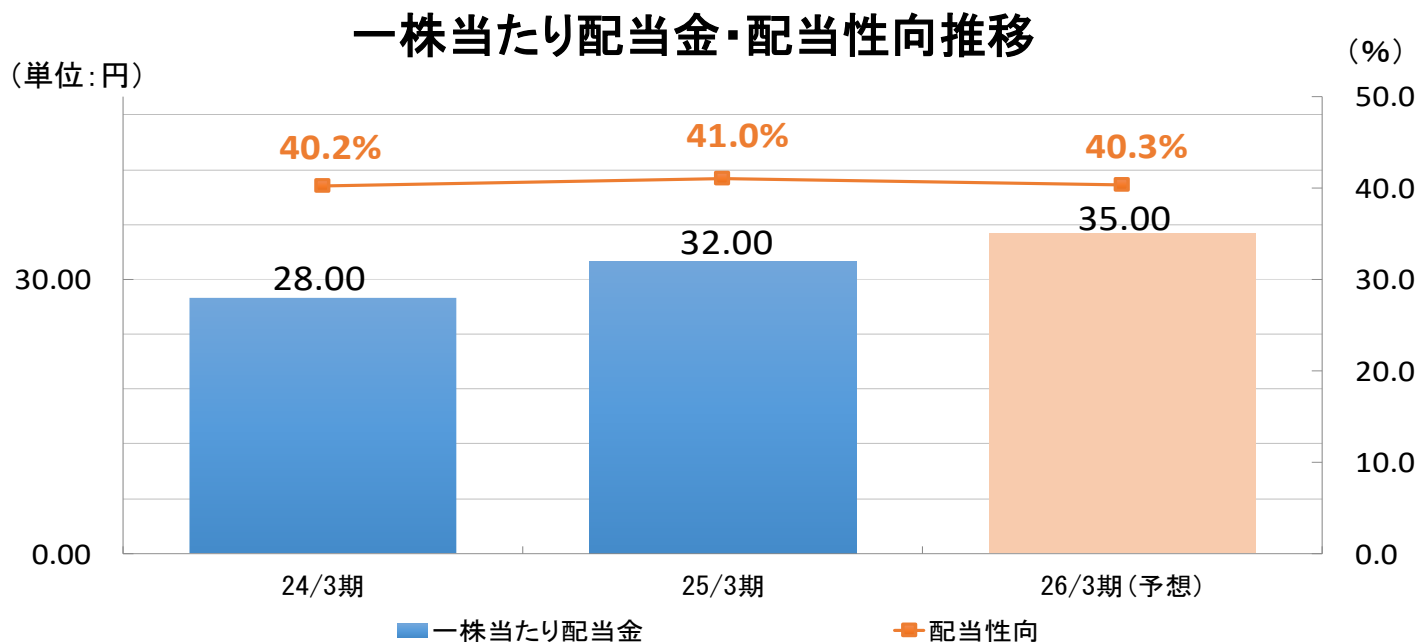
株主還元

■ 配当方針

長期にわたり、安定して利益還元ができるよう、内部留保、業績水準ならびに配当性向等を総合的に勘案し、利益還元に努めることを基本方針としております。

なお、2026年3月期から2030年3月期の株主還元につきましては、総還元性向50%以上を意識し、利益成長に応じた増配と機動的な自己株式取得を実施する方針としております。

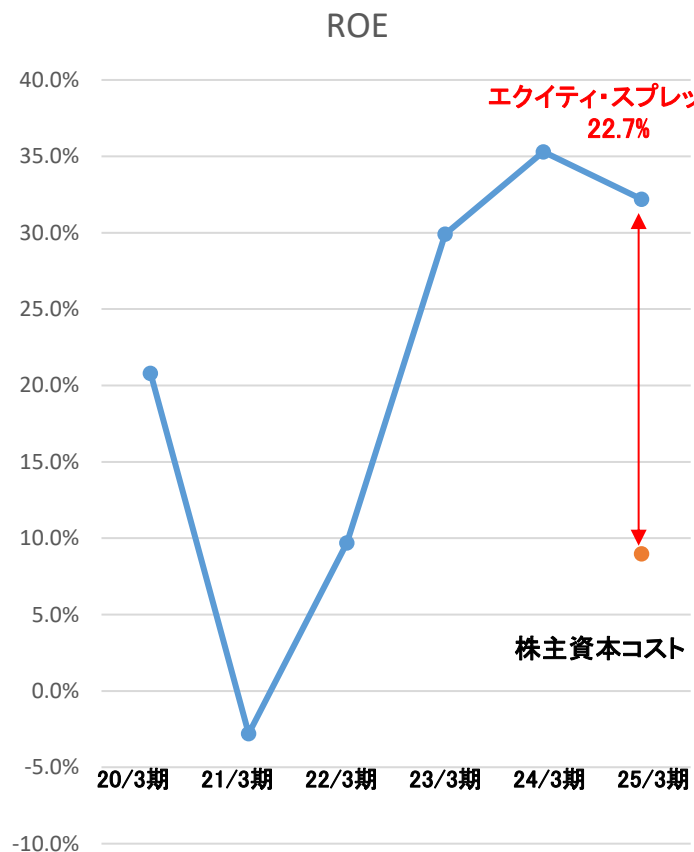
■ 2026年3月期 1株当たり配当金予想 35円



資本コストや株価を意識した経営への対応

■資本収益性の分析

株主資本コストをCAPM(資本資産価格モデル)で算出し、概ね9.5%程度と認識しております。ROEは、23/3月期は29.9%、24/3月期は35.1%、25/3月期は32.2%となり、株主資本コストを大きく超えて推移いたしております。今後もROE30%以上を目標にさらなる収益性の向上に努め、高ROE経営を推進し、企業価値の向上に努めてまいります。



	20/3期	21/3期	22/3期	23/3期	24/3期	25/3期
ROE	20.8%	-2.8%	9.7%	29.9%	35.1%	32.2%
ROE分解						
売上高純利益率	9.1%	-2.5%	6.0%	14.0%	16.9%	16.8%
総資産回転率(回)	1.71	0.90	1.23	1.56	1.53	1.47
財務レバレッジ(倍)	1.34	1.28	1.32	1.37	1.35	1.31

	【収益性】	【資産効率性】	【財務レバレッジ】
ROE	=	×	×
	$\frac{\text{純利益}}{\text{売上高}}$	$\frac{\text{売上高}}{\text{総資産}}$	$\frac{\text{総資産}}{\text{自己資本}}$

株主資本コスト(%) 25/3期

リスクフリーレート	ベータ(β)感応度	リスクプレミアム	株主資本コスト
安全資産・無利息金利 ※10年国債利回りを ベースに設定	× 当社固有のリスク	× 株式投資に期待する超 過収益率※過去の株式 市場リターンから設定	= 9.51% CAPMより算出

資本コストや株価を意識した経営への対応

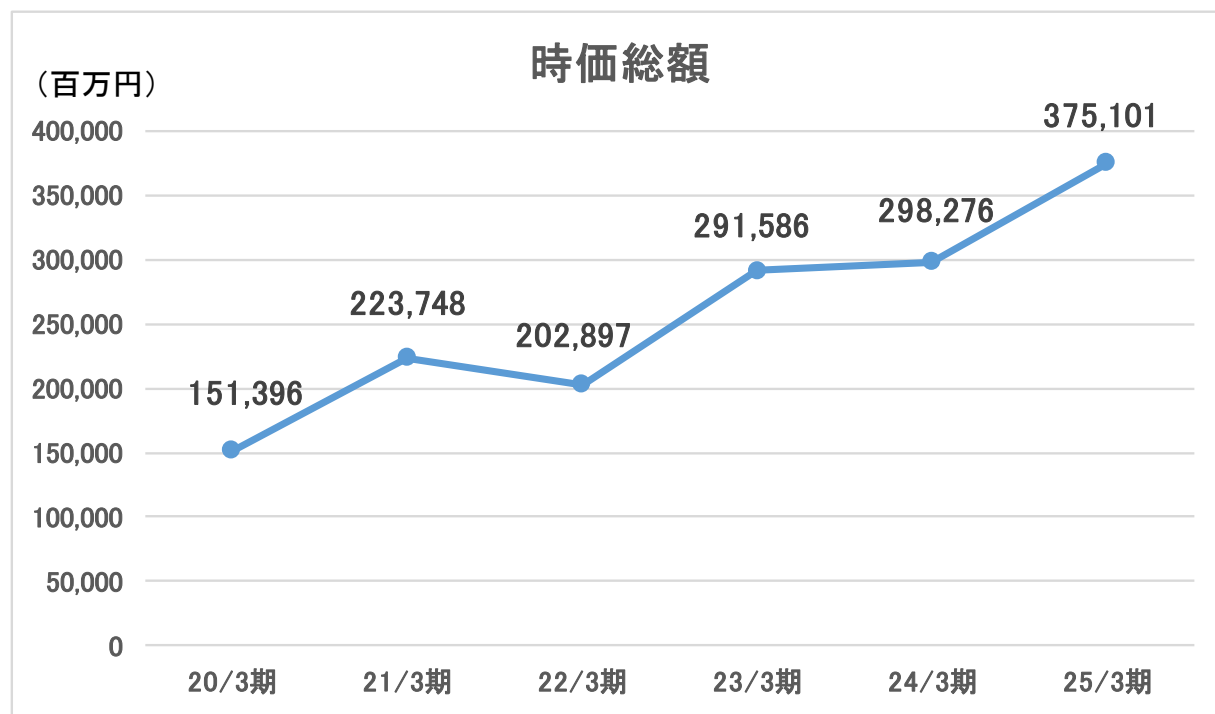
■市場評価(PER、PBR)

25/3期末のPBR(株価純資産倍率)は9.36倍と1倍を大きく超えております。

	20/3期	21/3期	22/3期	23/3期	24/3期	25/3期
PER	36.92	—	105.91	41.55	27.54	31.15
PBR	7.15	11.57	9.97	11.00	8.47	9.36

(注)21/3期のPERは、当期純損失のため非表示

■市場評価(時価総額)



(注)時価総額＝期末株価×(発行済株式数－自己株式数)



《参考情報》

会社概要



商号	寿スピリッツ株式会社
証券コード	2222(東証プライム)
会社所在地	〒683-0845 鳥取県米子市旗ヶ崎2028番地
設立	1952年4月25日
資本金	12億6,324万円
代表取締役社長	河越 誠剛
従業員数	単体7名・連結1,758名
グループ会社	連結子会社18社(国内17社・海外1社)
連結売上高	723億円(2025年3月期)

沿革(1)

- 1952年4月 (昭和27年) 鳥取県米子市角盤町に**寿製菓株式会社**を設立し、飴菓子等の製造を開始。
- 1959年4月 (昭和34年) 観光土産菓子部門に進出。
- 1968年11月 (昭和43年) 銘菓“**因幡の白うさぎ**”を発売し、観光土産用菓子の高級化に取り組む。
- 1972年4月 (昭和47年) 石川県加賀市に株式会社コトブキを設立。その後西日本を中心に販売子会社を順次設立し全国に販売網を広げる。
- 1979年5月 (昭和54年) 現在地(鳥取県米子市)に本社工場を新築移転。
- 1987年3月 (昭和62年) 兵庫県美方郡新温泉町に**株式会社但馬寿**を設立。
- 1988年 (昭和63年) 地元特産の果物を使い、その土地限定で販売する『草冠のない菓子＝果子』をコンセプトに、他社との差別化展開を図る。【旅の味覚の演出家】
- 1993年4月 (平成5年) 鳥取県米子市に製造工程を見学できる大型販売施設『**お菓子の壽城**』を設置。小売事業に本格着手。
- 1994年11月 (平成6年) ジャスダック上場。
- 1996年4月 (平成8年) 北海道千歳市に株式会社コトブキチョコレートカンパニー(現**株式会社ケイシイシイ**)を設立し北海道へ本格進出。製造拠点としてチョコレート、ラングドシャのアイテムが加わる。



“因幡の白うさぎ”



寿製菓(株) 本社工場



お菓子の壽城

沿革(2)

- 1998年6月 (平成10年) 創業100年老舗商標を譲受け、東京都中央区に **株式会社つきじちとせ**を設立。東京和菓子ブランド展開に着手。北海道小樽市に株式会社ケイセイシイが『**小樽洋菓子舗ルタオ**』を設置。洋菓子小売専門店立上げ。
- 2005年2月 (平成17年) 営業譲受けにより株式会社九十九島エスケイファーム他3社より菓子の製造・販売事業を継承し、**株式会社九十九島グループ**スタート。
- 2006年10月 (平成18年) 寿スピリッツ株式会社に社名変更、会社分割により純粋持株会社体制に移行。
- 2011年12月 (平成23年) 東京都港区に**株式会社シュクレイ**を設立。
- 2012年1月 (平成24年) 株式会社つきじちとせが、株式会社シュクレイに事業の一部を譲渡し解散。
- 2012年11月 (平成24年) 台湾台北市に台湾北壽心股份有限公司を設立。
- 2013年4月 (平成25年) 東京証券取引所市場第二部に上場。
- 2014年4月 (平成26年) 東京証券取引所の市場第一部に銘柄指定。
- 2014年9月 (平成26年) 東京都港区に**純藍株式会社**を設立。
- 2016年1月 (平成28年) **株式会社フランセ**の全株式を取得して子会社化。
- 2017年4月 (平成29年) **株式会社シュクレイ**が**株式会社フランセ**を吸収合併。
- 2022年4月 (令和4年) 東京証券取引所の市場区分見直しにより、プライム市場へ移行。
- 2024年7月 (令和6年) 沖縄県宮古島市に株式会社ケーエムエフを設立。



小樽洋菓子舗ルタオ



“九十九島せんべい”

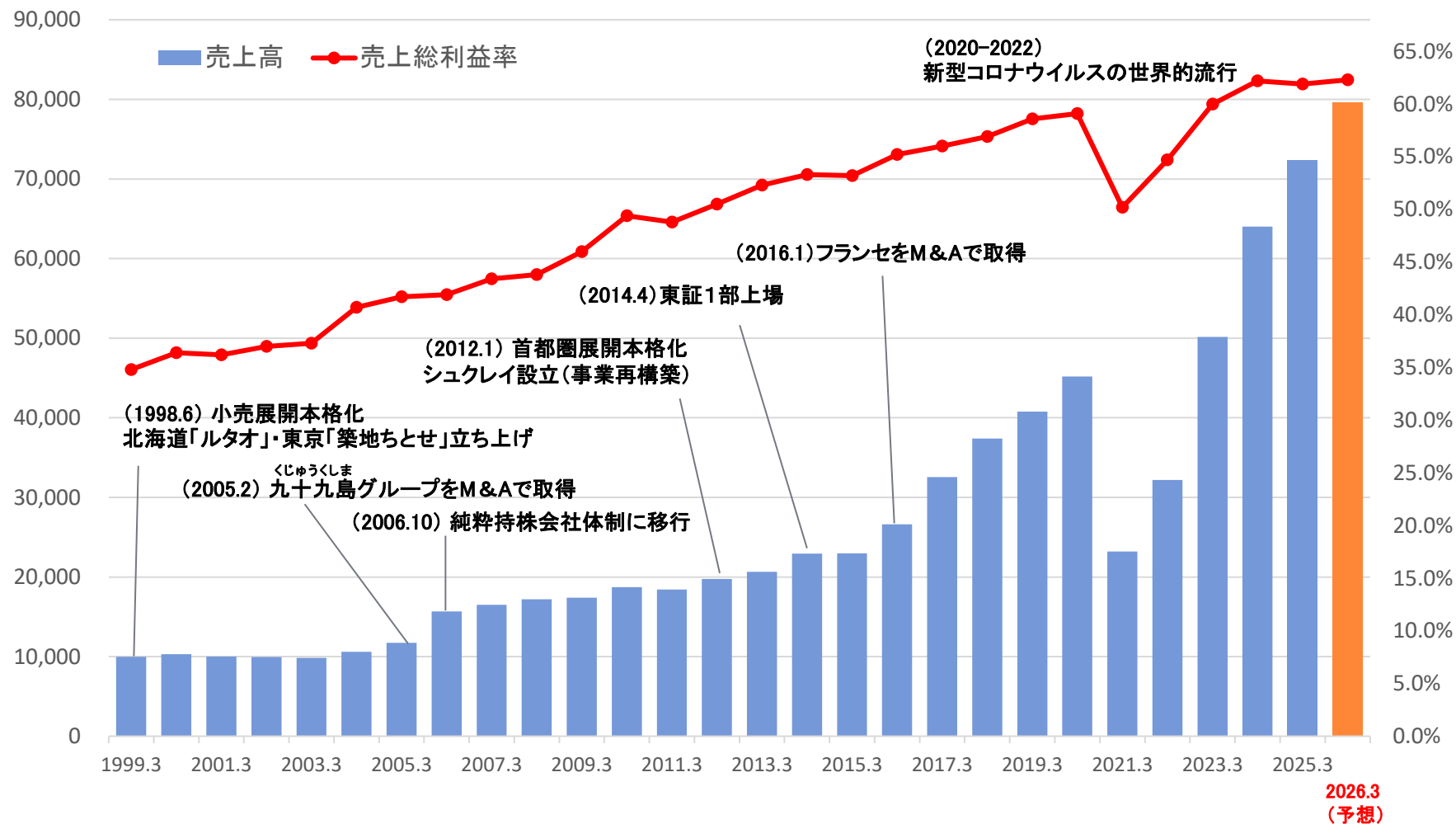


洋菓子のフランセ

寿スピリッツグループの変遷①

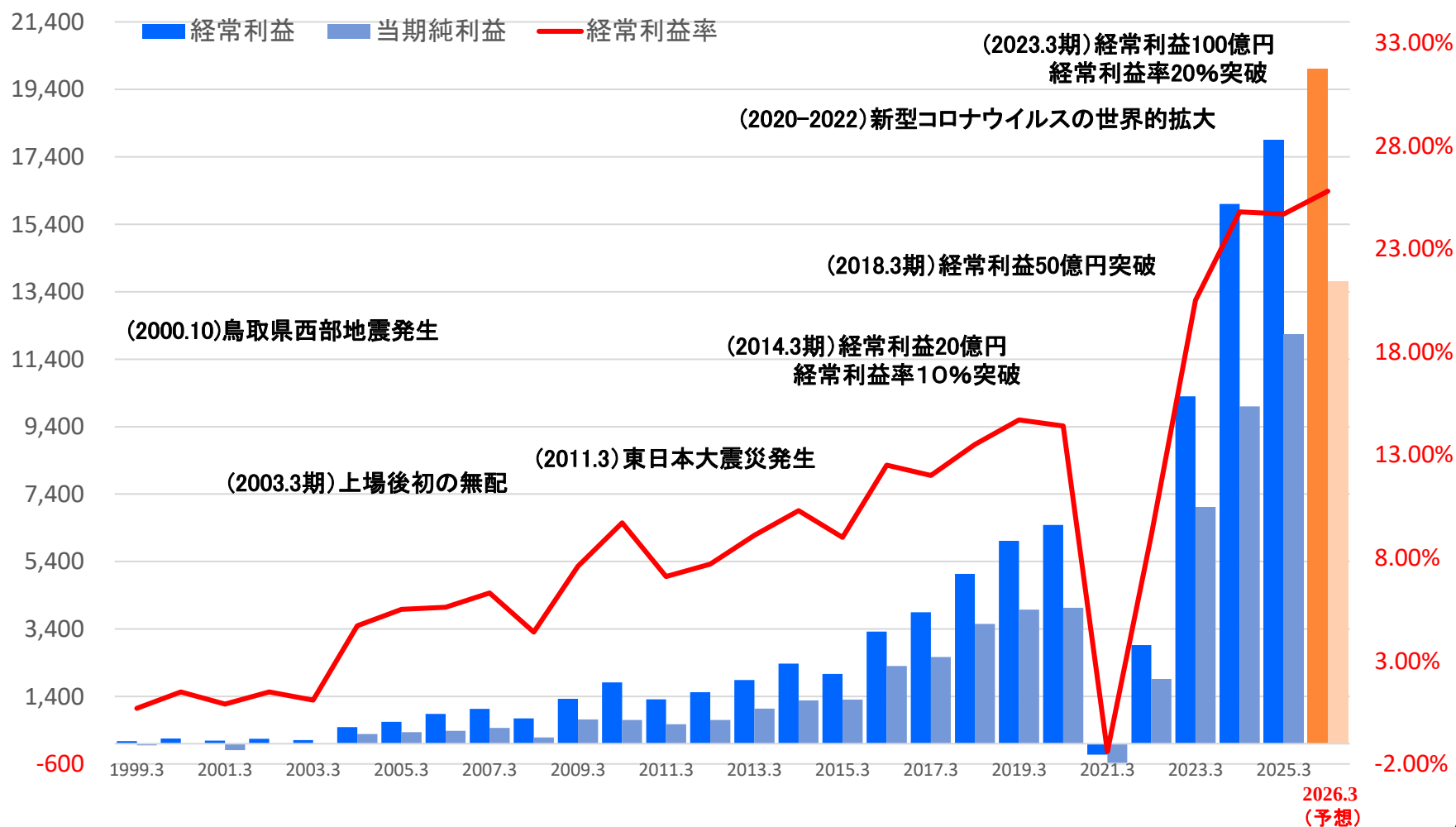
製造卸から製造小売型経営への変革により、高粗利率経営を実現

単位:百万円



寿スピリッツグループの変遷②

2025年3月期 経常利益率は24.4%となり、高い収益性を実現



主要ショップブランド

お菓子の**壽城**



(山陰)

KÄNOZA
IZUMO

(山陰)



(北海道)



(佐世保・福岡)



(神戸)



(京都)



(東京)



(東京)



(東京)



(東京)

主力商品一例



Nostalgic Modern
LeTAO
★ Nostalgic Sweets Museum ★

「ドゥーブルフロマージュ」 寿製菓株式会社「因幡の白うさぎ」



「ソルト&カマンベールクッキー」



「果実をたのしむミルフィユ」



「バターフィナンシェ」



くじゅうくしま
「九十九島せんぺい」



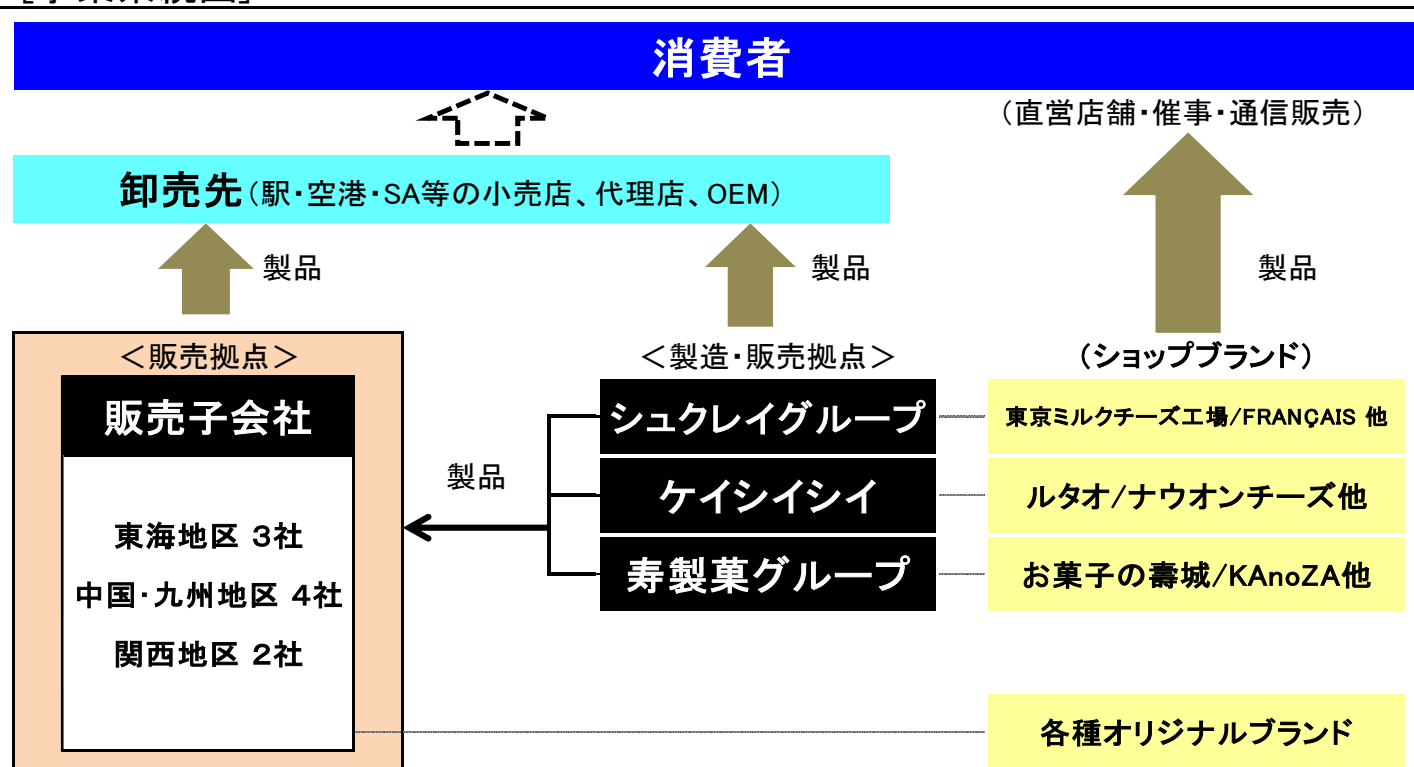
事業概要

当社グループは、当社（純粋持株会社）・子会社18社で構成。

事業セグメントは、地域事業会社を基礎に区分。（地域事業会社の連合体）

北海道から沖縄に至る全国を網羅した販売プラットフォームと製造拠点の強みを活かし、企画・製造・販売までの一貫したサービスを提供。

[事業系統図]



注: 上図には、寿スピリッツ(純粋持株会社)は除いている。

グループ生産体制



本社工場



浦津工場



淀江工場(お菓子の壽城)



但馬工場



寿製菓
本社工場
浦津工場
淀江工場
但馬工場

※全工場でISO22000取得



本社工場



黒髪工場



卸団地工場



第1工場



第2工場



ケイセイセイ

第1工場 FSSC22000認証取得

第2工場 FSSC22000認証取得

(AIBフードセーフティー監査システム導入)



福浦工場



浜松工場



シュクレイ

横浜工場

浜松工場

静岡工場

※全工場でFSSC22000認証取得



富士山静岡工場



九十九島グループ

本社工場

黒髪工場

卸団地工場

※JICQA仕様-HACCPシステム認証取得



熱狂的ファンづくりの取り組み事例

「熱狂的ファンづくり」とは、経営理念「喜びを創り喜びを提供する」の行動指針を言い表した標語です。

《寿スピリッツ》



●2025年1月17日、こづち発表全国大会/総決起大会を初めて北海道で開催



《寿スピリッツ》



●グループ各社の入社式

2025年4月、当社グループに127名の新たな即戦力社員が加わりました。



《寿製菓》



●本社工場は、米子市内の小学3年生を中心に工場見学を実施しています。

うさぎの目付け体験は生徒同士で大変盛り上がる大人気コーナーです。生徒からご家族を通じて地域の方へ寿製菓の魅力をお伝えし、熱狂的ファン創りに繋げています。



《ケイシイシイ》



●「果実とバター canarina(カナリナ)」がJR東日本おみやげグランプリ2024 (※1)
総合グランプリを受賞



(※1)「みんなが贈りたい。JR 東日本おみやげグランプリ 2024」とは、JR東日本管内1都16県よりエントリーされた商品の中から88品の中からお客様の投票により総合グランプリが決定されるコンテストです。

《シュクレイ》

SUCREY
ADYAMA

●「COCORIS(ココリス)」が東京駅限定スイーツ売上ランキング(※1)で5年連続1位を受賞



(※1)東京駅のエキナカ商業施設「グランスタ東京」で年間を通して販売している東京駅限定の定番スイーツを対象とした 2024年5月1日(水)～2024年5月31日(金)の実店舗売上金額の集計に基づき、株式会社JR東日本クロスステーション デベロップメントカンパニーが2024年6月27日発表。

《シュクレイ》

SUCREY
ADYAMA

●2024年10月29日、シュクレイ富士山静岡工場竣工式を開催しました。竣工式には静岡市難波市長に臨席頂き、地元のテレビや新聞をはじめ多くのメディアに注目されました。



●「九十九島せんぺいフィナンシェ」が令和6年度長崎特産品試作展「ながさき手みやげ大賞」を受賞しました。

令和6年度長崎県特産品新作展表彰式